corega®

EtherII PCC-T

取扱説明書

PN J613-M3504-00 Rev.B 990604

使用および取り扱い上の注意

本製品を安全に使用するために、以下の事項を必ずお守りください。これらの事項が守られていない場合、感電、怪我、火災、故障などの原因になります。

分解禁止

本製品のカバーを外したり分解したりしないでください。感電や故障の原因となります。また、メディアケーブルも分解しないでください。

稲妻危険

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。

静電気注意

本製品・メディアケーブルは、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分などに素手で触れないでください。

取り付け・取り外し時の注意

コンピュータの PC カードスロットに本製品を取り付ける作業は、必ずご使用のコンピュータのマニュアルを参照の上、正しく行ってください。

取り扱いは丁寧に

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。

設置、ケーブル配線、移動は電源を抜いて

本製品の設置、ケーブル配線、移動などを行う場合は、必ずコンピュータの電源ケーブルを抜いて行ってください。

次のような場所での使用や保管はしないでください

- 直射日光の当たる場所
- 暖房器具の近くなどの高温になる場所
- 急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
- 振動の激しい場所
- ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因にもなります）
- 腐食性ガスの発生する場所
- スピーカー付近などの強磁界

動作温度と湿度

本製品は温度0～55 ℃、湿度最大95%（ただし、結露なきこと）の範囲内でご使用ください。

お子様の手の届かないところに保管してください

異物を入れないでください

本製品の隙間から金属、液体などの異物を入れないでください。本体内部に異物が入ると火災、感電などの恐れがあります。

長期保管時は付属静電防止袋に収納してください。

本製品を長期にわたって保管する場合は、コンピュータのPCカードスロットに入れたままにしないで必ず梱包時に使用されていた静電防止袋に入れてください。

日常のお手入れ

本製品の汚れは、やわらかい乾いた布でふいてください。ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。製品の変形、変色の原因になります。

高温注意

本製品は内部に多くの部品を集積しており、使用中に高熱を発するようになります。ご使用直後はかなり高温になっておりますのでご注意ください。火傷の恐れがあります。

運搬時の注意

本製品をコンピュータのPCカードスロットに装着したままでコンピュータを運搬するときには必ず付属のメディアケーブルを外してください。

濡れたカードは使用しない

万が一カードが濡れた場合はショートによる感電・火災を防ぐため、絶対に使用しないでください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

0 はじめに

この度は、「corega EtherII PCC-T」 LAN PC カードをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。 このマニュアルは、 本製品を正しくご利用いただくための手引きです。 必要なときにいつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管くださいますようお願いいたします。

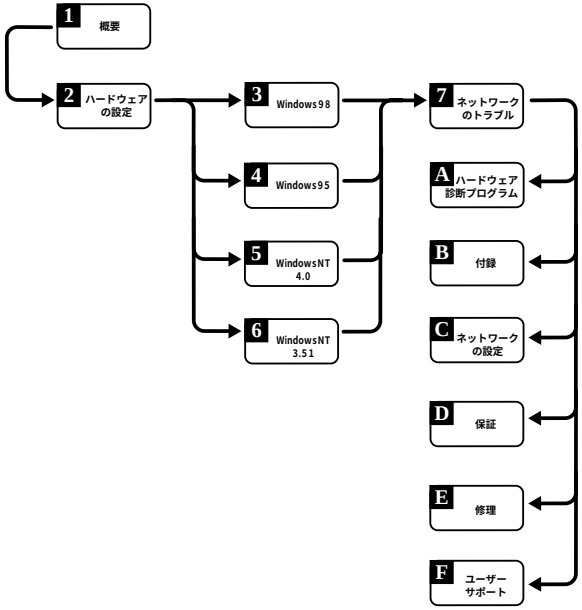
0.1 内容物をご確認ください

本製品パッケージの内容は、下 記の 通りです（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

- corega EtherII PCC-T本体
- メディアケーブル
- ドライバーディスク（2 枚）
- 取扱説明書
- シリアル番号ラベル

0.2 このマニュアルの構成

このマニュアルは、次図のような構成になっています。ドライバーのインストール手順などは、Windows98/95/NT4.0/NT3.51 に分けて記述していますが、その他の項目は、共通の記述になっているところもあります。ご使用のオペレーティングシステム（OS）に応じて、図のように読み進んでください。



0.3 ドライブ名「A:」「C:」「D:」

本書では、ドライバーのインストール対象となるコンピュータ機種として「AT 互換機または PC98-NX」、ドライブ名として下記を仮定して説明しています。ご使用のコンピュータでドライブ名が異なる場合は、ご使用のコンピュータにおけるものと読み替えてください。

- 「フロッピーディスクドライブ」として「A:」
- 「起動ドライブ（ハードディスク）」として「C:」
- 「CD-ROM ドライブ」として「D:」

「PC-9800/PC-9821」における一般的なドライブ名を次頁に挙げます（必ずしも次頁の通りではありません。コンピュータのマニュアル、実際にご使用のコンピュータでご確認ください）。

- 「フロッピーディスクドライブ」として「B:」
- 「起動ドライブ（ハードディスク）」として「A:」
- 「CD-ROM ドライブ」として「Q:」

0.4 表記上の注意

Windows95 には、いくつかのバージョンが存在します。本マニュアルでは、各用語を以下の意味で使用しています。

- Version 950　　Windows95 Ver.4.00.950
- Version A　　Windows95 Ver.4.00.950a
- Version B　　Windows95 Ver.4.00.950 B
  このバージョンは「Version B」「OSR2（= OEM Service Release 2）」「Type B」などの呼称が存在しますが、本書では "Version B" に統一します。
- Version C　　Windows95 Ver.4.00.950 C
  このバージョンは「Version C」「OSR2.5（= OEM Service Release 2.5）」「Type C」などの呼称が存在しますが、本書では "Version C" に統一します。

特に、バージョンを区別しない説明の場合には、Windows95 と表記します。

目次

0 はじめに 4
0.1 内容物をご確認ください 4
0.2 このマニュアルの構成 4
0.3 ドライブ名「A:」「C:」「D:」 5
0.4 表記上の注意 6

1 概要 10
1.1 特長 10
1.2 対応コンピュータ機種 10
1.3 対応オペレーティングシステム 11
1.4 各部の名称と働き 11
1.5 ドライバーディスク 13

2 ハードウェアの設定 14
2.1 メディアケーブルの取り付け・取り外し 14
2.2 PC カードの取り付け・取り外し 15
2.2.1 PC カードの取り付け・取り外し (WindowsNT4.0/3.51) 15
2.2.1.1 PC カードの取り付け 15
2.2.1.2 PC カードの取り外し 15
2.2.2 PC カードの取り付け・取り外し (Windows98/95) 16
2.2.2.1 PC カードの取り付け 16
2.2.2.2 PC カードの取り外し 16
2.3 ネットワークへの接続 17

3 Windows98 19
3.1 ドライバーのインストール 19
3.1.1 用意するもの 19
3.1.2 新規インストール 19
3.2 インストールの確認とアダプターの設定 25
3.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認 25
3.2.2 PC カード（PCMCIA）による確認 28
3.2.3 ネットワークの設定 28
3.3 ドライバーの更新 30
3.4 ドライバーの削除 36
3.5 ドライバーの再インストール 38
3.6 ドライバーのトラブル 38
3.6.1 本製品を認識しない 38
3.6.2 デバイスマネージャで「×」が付く 39
3.6.3 PCMCIA コントローラが正しく表示されない 39
3.6.4 リソース値重複の回避 41

4 Windows95 42
4.1 ドライバーのインストール 42
4.1.1 用意するもの 42
4.1.2 新規インストール 43
4.2 インストールの確認とアダプターの設定 47
4.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認 47
4.2.2 PC カード（PCMCIA）による確認 50

4.2.3 ネットワークの設定 51
4.3 ドライバーの削除 51
4.4 再インストール 55
4.5 ドライバーのトラブル 55
4.5.1 本製品を認識しない 55
4.5.2 デバイスマネージャで「×」が付く 56
4.5.3 PCMCIA コントローラが正しく表示されない 56
4.5.4 リソース値重複の回避 58

5 Windows NT Ver. 4.0 59
5.1 準備と確認 59
5.2 ドライバーのインストール 59
5.2.1 用意するもの 60
5.2.2 リソースの確認 60
5.2.2.1 概要 60
5.2.2.2 リソースの値 61
5.2.2.3 Windows NT 診断プログラムの使用方法 61
5.3 ドライバーの新規インストール 63
5.4 インストール後 72
5.4.1 リソースの確認 72
5.4.2 本製品を使用しないとき 73
5.5 ドライバーの削除と再インストール 74
5.5.1 ドライバーの削除 74
5.5.2 再インストール 75

6 Windows NT Ver. 3.51 76
6.1 準備と確認 76
6.2 ドライバーのインストール 76
6.2.1 用意するもの 77
6.2.2 リソースの確認 77
6.2.2.1 概要 77
6.2.2.2 リソースの値 78
6.2.2.3 Windows NT 診断プログラムの使用方法 78
6.3 ドライバーの新規インストール 80
6.4 インストール後 92
6.4.1 リソースの確認 92
6.4.2 本製品を使用しないとき 93
6.5 ドライバーの削除と再インストール 94
6.5.1 ドライバーの削除 94
6.5.2 再インストール 96

7 ネットワークのトラブル 97
7.1 LNK LED は点灯していますか？ 97
7.2 LNK LED は点灯しているが 97

A ハードウェア診断プログラム 99
A.1 概要 99
A.2 テストの手順（Windows98/95） 100
A.3 テストの手順（Windows NT） 101
A.3.1 Windows NT における特記事項 101
A.3.2 使用手順 101

A.4 コマンドオプション 102
A.5 エラーメッセージ一覧 102
A.6 診断結果 105

B 付録 107
B.1 製品仕様 107
B.2 ネットワークインターフェース 108
B.3 MAC アドレス 109

C ネットワークの設定 110
C.1 ピアツーピア接続をするための設定方法 110
C.1.1 「NetBEUI」、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認 110
C.1.2 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加 111
C.1.3 識別情報の確認 112
C.1.4 コンピュータのディスク共有設定 114
C.1.5 他のコンピュータへの接続 115
C.2 「Microsoft ネットワーククライアント」および「NetBEUI」の追加方法 116
C.2.1 「Microsoft ネットワーククライアント」の追加方法 116
C.2.2 「NetBEUI」の追加方法 118
C.3 共有設定画面 120
C.4 ユーザー名とパスワード 121
C.5 識別情報画面 122

D 保証について 123

E 修理について 123

F ユーザーサポートについて 124
F.1 corega Net-News の購読について 124
F.2 調査依頼書のご記入のお願い 125
F.3 システムレポート添付のお願い 126

G おことわり 128

1 概要

1.1 特長

corega EtherII PCC-T（以下、本製品と表記）は以下の特長をもつ LAN PC カードです。

- PC Card Standard (PCMCIA Rel.2.1 / JEIDA Ver.4.2）Type Ⅱ に対応
- Type Ⅱ PC カードスロットをもつ AT 互換機 /NEC PC98-NX、PC-9800/PC-9821 に対応
- 10M Ethernet（10BASE-T) に対応
- 接続アダプターが付属（RJ-45 型 10BASE-T コネクター（メス）を提供）
- 動作状態を表示する 2 個の LED がカード本体に付属
- Plug&Play に対応 (注)
- 活線挿抜（Hot Plug/Hot Swap）に対応 (注)

注意

Plug&Play、活線挿抜は、これらの機能に対応しているコンピュータ、オペレーティングシステム（OS）とドライバーのもとでご使用になれます。

1.2 対応コンピュータ機種

本製品は、PC Card Standard（PCMCIA Rel.2.1 / JEIDA Ver.4.2　Type Ⅱ ）に対応する PC カードスロットを持つ次のコンピュータ機種に対応しています。

- AT 互換機および NEC PC98-NX
- NEC PC-9800/PC-9821

1.3 対応オペレーティングシステム

本製品は、次のオペレーティングシステム（OS）に対応しています。

- Windows98
- Windows95
- WindowsNT Ver.4.0
- WindowsNT Ver.3.51

注意

省電力モード（パワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能には対応しておりません。すべての設定を無効にしてご使用ください。

1.4 各部の名称と働き

図 1.4.0.1 ～図 1.4.0.2をもとに各部の名称と働きを説明します。

①PC カード本体
コンピュータの PC カードスロットに挿入し、LAN アダプターの機能を提供します。

②ACT LED
パケットの送受信が発生したとき橙色に点灯します。パケットの送受信が発生していないときは消灯しています。

③LNK LED
対向装置と正常にリンクが確立されたとき緑色に点灯します。リンクしていないときは消灯しています。

④脱着ツメ
メディアケーブルの脱着を行うためのツメです。メディアケーブルの脱着は必ずこのツメを持って行ってください。

⑤メディアケーブル
PC カード本体と UTP ケーブルを接続するためのケーブルです。

⑥RJ-45 モジュラージャック
UTP ケーブル（シールドなしツイストペアケーブル）を接続するコネクターです。

⑦MAC アドレスラベル

本製品の MAC アドレスが記入されています。MAC アドレスついては、「付録 B.3 MAC アドレス」をご覧ください。

⑧警告ラベル

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

⑨シリアル番号ラベル

本製品のシリアル番号（製造番号）とリビジョンが記入されています。同じものが、3 枚ほど同梱されており、パッケージ（外箱）にも貼付されています。同梱されているシリアル番号ラベルは、「製品保証書」に貼付してください（残る 1 枚は予備です）。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせ時に必要な情報です。

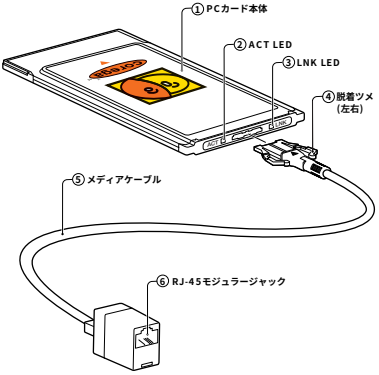


図 1.4.0.1 EtherII PCC-T 外観図（上面）

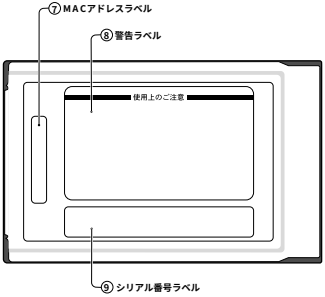


図 1.4.0.2 EtherII PCC-T 外観図（裏面）

1.5 ドライバーディスク

本製品には、下記の 2 種類のドライバーディスクが付属しています。 ご使用のコンピュータ機種にあわせて、ご使用ください。

- AT 互換機 /NEC PC98-NX 用（1.44M）
- NEC PC-9800/PC9821 用（1.25M）

本製品をご使用になる前に、 必ず、ドライバーディスクに含まれる「README.*」 ファイルをお読みください。「README.*」には、このマニュアルに記載されていない最新の情報が記載されています。

注意

\README.1ST (Read me first.) ファイルには、ドライバーディスクの詳細なディレクトリ構造やドライバーディスク全体に関わることが記載されています。各ディレクトリの中には、それぞれのドライバーに関連する README ファイルが存在します。

2 ハードウェアの設定

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。

警告

2.1 メディアケーブルの取り付け・取り外し

メディアケーブルの EtherII PCC-T 本体への**取り付け**は、下図のように、コネクターの▲マークを上にし、メディアケーブルのコネクターを本体のコネクターに奥まで差し込んでください。差し込んだら、メディアケーブルを軽く引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

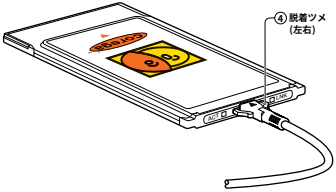


図 2.1.0.1 EtherII PCC-T 本体へのメディアケーブルの取り付け

メディアケーブルを EtherII PCC-T 本体から**取り外す**場合、本体（PC カード）をコンピュータから取り外し、メディアケーブルのコネクター部の左右にある 脱着ツメを押さえながら本体から引き抜いてください。

EtherII PCC-T 本体をコンピュータに取り付けた状態で、メディアケーブルの取り外しを行わないでください。メディアケーブルと PC カード本体は、強い力で嵌合しているため、メディアケーブルを引っ張ると、PC カードがコンピュータの PC カードスロットから抜けてしまいます。

警告

2.2 PC カードの取り付け・取り外し

ここでは、本製品の PC カードスロットへの取り付けおよび、取り外しの手順を説明します。対応するオペレーティングシステムにより、手順が異なりますので、ご使用のオペレーティングシステムにあわせて、次の項目を参照してください。

- WindowsNT4.0/3.51 の場合　→　「2.2.1 PC カードの取り付け・取り外し (WindowsNT4.0/3.51)」へ
- Windows98/95 の場合　→　「2.2.2 PC カードの取り付け・取り外し (Windows98/95)」へ

コンピュータの機種によっては、本製品を PC カードスロットに挿入するときに、挿しにくい場合もありますが、本製品は、PC カードスロットの奥までしっかりと押し込むようにしてください。（奥までしっかり挿されていないと、本製品が認識されないことがあります。）

2.2.1 PC カードの取り付け・取り外し (WindowsNT4.0/3.51)

WindowsNT4.0/3.51 の場合、本製品の PC カードスロットへの取り付け、取り外しは、必ずコンピュータの電源をオフにしてから実行してください。

2.2.1.1PC カードの取り付け

「EtherII PCC-T」の文字が印刷された面を上にして、本製品をコンピュータの PC カードスロットに挿入し、カチッと手応えがあるまで押し込んでください。

コンピュータ機種によっては、下に向けて装着するものもあります。間違って装着した場合、本製品やご使用のコンピュータの故障の原因となります。PC カード装着に関しては、必ずご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

2.2.1.2PC カードの取り外し

コンピュータの PC カード取り外しボタンを押してください。本製品は、PC カードスロットから外れ、手で取り出せる状態になります。

メディアケーブルを引っ張って PC カードを引き抜くことは絶対におやめください。本製品、メディアケーブルの故障の原因となります。

2.2.2 PC カードの取り付け・取り外し (Windows98/95)

ここでは、Windows98 の画面を使って説明しています。

2.2.2.1PC カードの取り付け

Windows98/95 は活線挿抜をサポートしているので、コンピュータの電源をオンにした状態で本製品を PC カードスロットに挿入することができます。
本製品（PC カード）のコンピュータへの 取り付けは、後述のインストール手順をお読みになってから行ってください（本製品をコンピュータの PC カードスロットに挿入すると、ただちにインストールが開始されてしまいます）。

(1) 「EtherII PCC-T」の文字が印刷された面を上にして、本製品をコンピュータの PC カードスロットに挿入し、カチッと手応えがあるまで押し込んでください。

警告

コンピュータ機種によっては、下に向けて装着するものもあります。間違って装着した場合、本製品やご使用のコンピュータの故障の原因となります。PC カード装着に関しては、必ずご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

(2) 本製品を PC カードスロットに挿入すると、Windows98/95 は Plug & Play 機能により本製品を検出します。

(3) 「PC カード（PCMCIA）のプロパティ」を表示させると（「コントロールパネル」→「PC カード（PCMCIA）」）、「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」の名前が表示されます（Windows98 の場合は、「図 3.2.2.1 PC カードのプロパティ（「ソケットの状態」）」（p.28）、Windows95 の場合は、「図 4.2.2.1 ソケットの状態」（p.50）を参照）。

2.2.2.2PC カードの取り外し

Windows98/95 は活線挿抜をサポートしているので、コンピュータの電源をオンにした状態で本製品を PC カードスロットから取り外すことができます。ただし、コンピュータの電源がオンの状態で本製品を取り外す場合は、必ず以下の手順で行ってください。

警告

以下の手順を守らなかった場合、コンピュータのハングアップや、Windows98/95 ファイルの破壊を招く恐れがあります。また、以下の手順をお守りいただかないで起こった障害に関してはユーザーサポートの対象外とさせていただきます。

(1) ネットワークと通信を行っているアプリケーション、例えば Internet Explorer、Netscape Navigator、Telnet やデータベースアプリケーションなどをすべて終了してください。「ネットワークドライブの割り当て」を行っている場合は、すべて切断してください。

(2) タスクバーの PC カードアイコン（通常デスクトップ右下）をクリックします。

図 2.2.2.2 PC カードアイコン

(3) 「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card　の中止」バーが表示されたらバーをクリックしてください。

図 2.2.2.3 「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card の中止」バー

(4) 次のメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

図 2.2.2.4 PC カード取り外しの確認

(5) コンピュータの PC カード取り外しボタンを押してください。本製品は、PC カードスロットから外れ、手で取り出せる状態になります。

メディアケーブルを引っ張って PC カードを引き抜くことは絶対におやめください。本製品、メディアケーブルの故障の原因となります。

2.3 ネットワークへの接続

ネットワークに接続するときのケーブルの取り扱いについて説明します。

(1) UTP ケーブルの端に付いたプラグの一方を、本製品の UTP コネクターにカチッと音がするまで差し込んでください。

注意

UTP ケーブル（シールドなしツイストペアケーブル）は、10BASE-T の場合はカテゴリー 3以上のものでストレートタイプをご使用ください。

(2) UTP ケーブルを引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

(3) UTP ケーブルのもう一方の端のプラグをハブ（またはスイッチ）のUTP コネクターに差し込んでください。手順は、上記(1)(2) と同様です。

UTP ケーブルの RJ-45プラグは、プラグの爪を指で押えながら手前に引くと、抜くことができます。

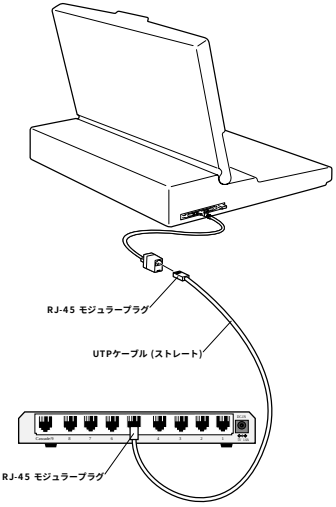


図 2.3.0.1 ハブとの接続例

3 Windows98

注意

以下に挙げる内容は一例です。お客様の環境によっては、手順などが若干異なることがあります。（本書に掲載した画面はAT互換機のものです。PC-9800/PC-9821の場合はディスクドライブ名が異なります。）

3.1 ドライバーのインストール

3.1.1 用意するもの

- EtherII PCC-T カード本体
- コンピュータ（Windows98 インストール済み）
- EtherII PCC-T ドライバーディスク（本製品に付属）
- Windows98 の CD-ROM

注意

Windows98 が、コンピュータ購入時にあらかじめインストールされた形態で提供されたもの、すなわちプリインストール版である場合は、Windows98 のバックアップ CD-ROM が付属しているかどうかをご確認ください。バックアップ CD-ROM が付属していない場合は、安全のため必ずフロッピーディスクに Windows98 のバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。バックアップの手順については、ご使用のコンピュータのマニュアルをご覧になるか、コンピュータメーカーにご確認ください。

3.1.2 新規インストール

本製品のドライバーを Windows98 に新規インストールする手順を説明します（ここでは、今までにネットワークアダプター用ドライバーをインストールしたことがなく、今回初めて本製品のドライバーをインストールする場合の手順について説明します）。

(1) コンピュータの電源をオンにし、Windows98 を起動してください。

(2) コンピュータの PC カードスロットに本製品を挿入してください。

(3) Windows98 は本製品が PC カードスロットに挿入されたことを自動的に検出し、次のダイアログを表示します。「次へ>」ボタンをクリックしてください。

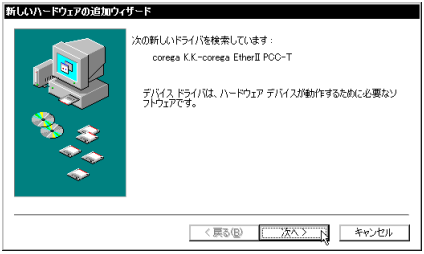


図 3.1.2.1 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の起動

(4) 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ >」ボタンをクリックしてください。

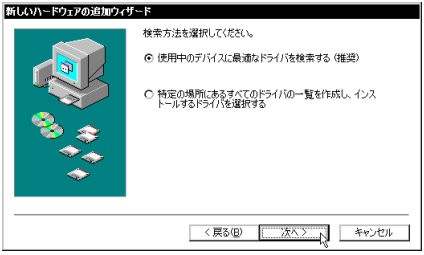


図 3.1.2.2 検索方法の選択

(5) 本製品のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、次のダイアログで「フロッピーディスクドライブ」を選択して、「次へ >」ボタンをクリックしてください。

図 3.1.2.3 フロッピーディスクドライブをチェック「✓」

(6) 「更新されたドライバ（推奨）」（corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card）を選択し、「次へ>」ボタンをクリックしてください。

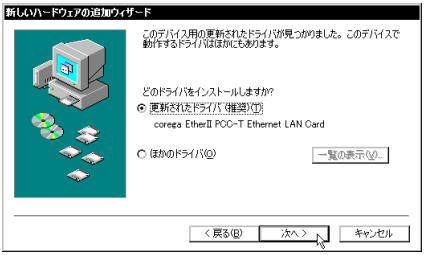


図 3.1.2.4 ドライバの選択

「次へ」ボタンをクリックした後、次の画面（図 3.1.2.5）が表示されるまでに少し時間がかかる場合がありますが、再度「次へ」ボタンをクリックするようなことはしないで、次の画面が表示されるまでお待ちください。

(7) ダイアログの内容を読み、「次へ>」ボタンをクリックしてください。

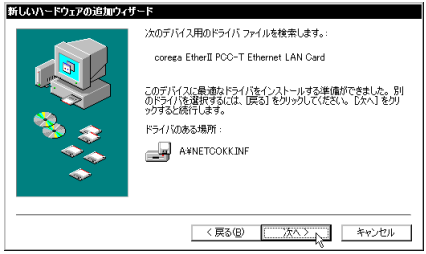


図 3.1.2.5 ドライバーファイルの検索開始

(8) インストールの途中で、次のようなダイアログが表示される場合は、フロッピーディスクドライブに本製品のドライバー ディスクが入っていることを確認し、「ディスクの挿入」ダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。

図 3.1.2.6 ドライバーディスクの要求

次のダイアログが表示される場合は、「ファイルのコピー元」にパスの指定を、「**A:\windows.98**」と入力し「OK」ボタンをクリックしてください。ここでは、フロッピーディスクドライブを A: と仮定します。

注意

ファイル「copcc2.sys」は、Windows98 の CD-ROM 上のファイルとして説明されていますが、実際は、本製品に添付されている、corega EtherII PCC-T 用のドライバーディスクの中に収められています。

図 3.1.2.7 ドライバーのパス（所在）の指定

また、次のようなダイアログが表示される場合、Windows98 の CD-ROM が CD-ROM ドライブに挿入されていることを確認し、「ディスクの挿入」ダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。

図 3.1.2.8 Windows98 CD-ROM の要求

次のダイアログが表示される場合は、「ファイルのコピー元」に「**D:\WIN98**」を入力してください。ここでは CD-ROM ドライブを「D:」、AT 互換機を仮定します。PC-9800/PC-9821 の場合は、「**Q:\WIN98N**」を指定してください。

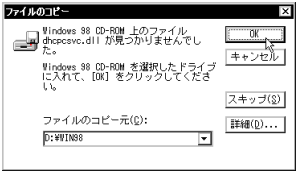


図 3.1.2.9 Windows98 関連ファイルの所在の指定

注意

ご使用のコンピュータがプリインストール版である場合、「ファイルのコピー元」として「C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」を入力してください（AT 互換機/PC98-NX）。PC-9800/PC-9821 では、「A:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」を入力してください。

(9) 「完了」ボタンをクリックしてください。

図 3.1.2.10 インストールの完了

(10) フロッピーディスクドライブからドライバーディスクを抜き、「はい」ボタンをクリックし、コンピュータを再起動してください。

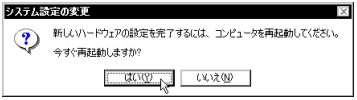


図 3.1.2.11 再起動の確認

(11) 以上でドライバーのインストールは終了です。引き続き「3.2 インストールの確認とアダプターの設定」にお進みください。

インストール後の再起動時に、次のようなダイアログが表示されることがあります。DHCP サーバを使用していなければ、「いいえ」ボタンをクリックしてください。また、DHCP サーバーを使用している場合（例えば、ケーブルテレビを使用したインターネット接続等）は、「はい」ボタンをクリックしてください。LAN 環境で TCP/IP をご使用になる場合は、DHCP の設定に関してシステム管理者にご相談ください。

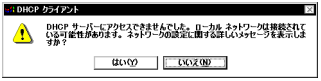


図 3.1.2.12 DHCP メッセージ

3.2 インストールの確認とアダプターの設定

はじめにドライバーのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

3.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認

(1) 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックしてください。

図 3.2.1.1 「コントロールパネル」ー「システム」アイコン

(2) 「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」が表示されます。(次頁図 3.2.1.2 参照)

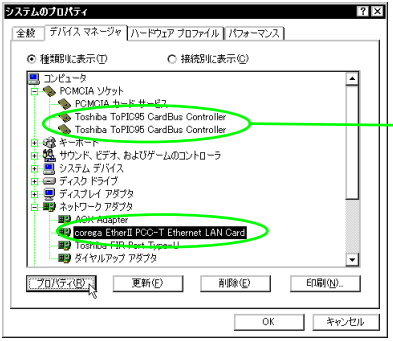


図 3.2.1.2 システムのプロパティ

注意

ご使用のコンピュータが CardBus 対応モデルであり、かつ PCMPIA コントローラが 16bit/32bit 共用タイプである場合、PCMCIA コントローラは同じ名称が 2 列以上表示されます。

本製品のアイコンに「×」「?」「!」などのマークが付いていたり、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、「3.6 ドライバーのトラブル」（p.38）をご覧ください。

(3) 「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」を選択（反転表示）し、「プロパティ」→「全般」タブと進みます。「デバイスの状態」欄に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください。

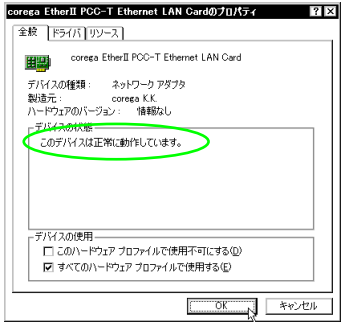


図 3.2.1.3 本製品のプロパティ（「全般」タブ）

(4) 本製品が使用するI/Oの範囲(I/Oアドレス)、割り込み要求(IRQ)などは、Windows98によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これらを確認することができます。
次の図 3.2.1.4 は、リソースの「I/Oの範囲」が「0340 - 035F」、「割り込み要求」が「10」に、自動的に設定された場合の表示例です。

図 3.2.1.4 本製品のプロパティ（「リソース」タブ）

3.2.2 PC カード（PCMCIA）による確認

「コントロールパネル」 の 「PC カード（PCMCIA）」 をダブルクリックします。「ソケットの状態」タブを選択し、該当するソケットに「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」 が表示されていることを確認します。

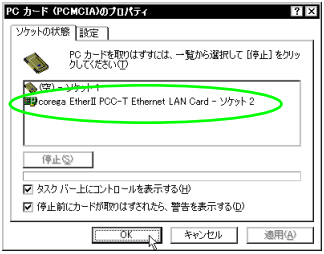


図 3.2.2.1 PC カードのプロパティ（「ソケットの状態」）

3.2.3 ネットワークの設定

「コントロールパネル」 の 「ネットワーク」 をダブルクリックし、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。 必要な設定を終えたら、「ネットワーク」 ダイアログの 「OK」 ボタンをクリックしてください。 再起動を促すダイアログが表示されます。 設定内容は、再起動後から有効となります。 設定に関する詳細は、システム管理者にご確認ください。

ピアツーピア接続（ディスクの共有やプリンタの共有） の設定に関しては、「C ネットワークの設定」（p.110）を参照してください。

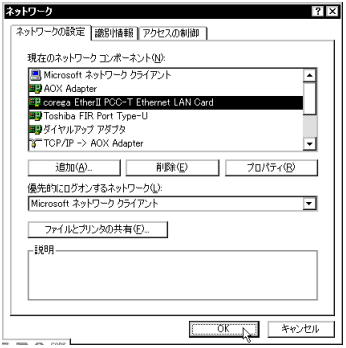


図 3.2.3.1 「ネットワーク」ダイアログ

3.3 ドライバーの更新

ドライバーの更新は、本製品用の最新のドライバーを入手したときに実行します。

(1) Windows98 の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブに入れてください。

(2) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進みます。「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」を選択して、「プロパティ」ボタンをクリックしてください（図 3.2.1.2）。

(3) 次のダイアログで「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックしてください。

図 3.3.0.1 本製品のプロパティ（「ドライバ」タブ）

(4) 「次へ>」ボタンをクリックしてください。

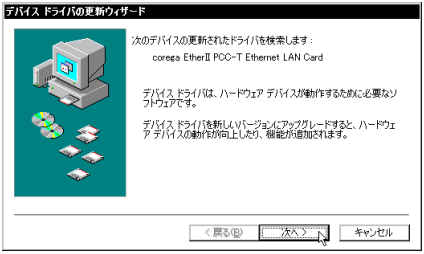


図 3.3.0.2 「デバイスドライバの更新ウィザード」の起動

(5) 「特定の場所にあるすべてのドライバ の一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」ラジオボタンを選択し、「次へ>」ボタンをクリックしてください。

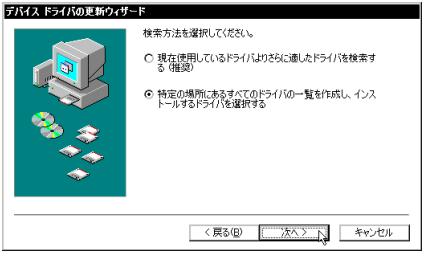


図 3.3.0.3 検索方法の選択

(6) 次のダイアログが表示されたら、「ディスク使用」ボタンをクリックします。

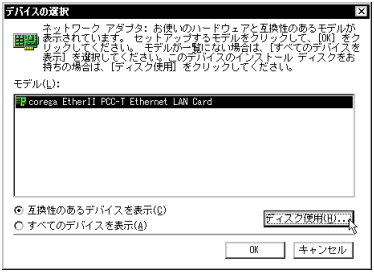


図 3.3.0.4 ドライバーの更新には、ディスクを使用

(7) 本製品の最新のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、次のダイアログで「A:\windows.98」（PC-9800/PC-9821 では「B:\windows.98」）と入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。

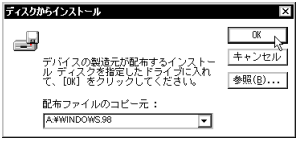


図 3.3.0.5 ドライバーの所在の指定

(8) Windows98 によってドライバーディスクが検索され、次のダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。ダイアログが閉じ、図 3.3.0.4 の画面に戻りますが、図 3.3.0.4 が自動的に閉じるまでそのまましばらくお待ちください（1～2 分）。

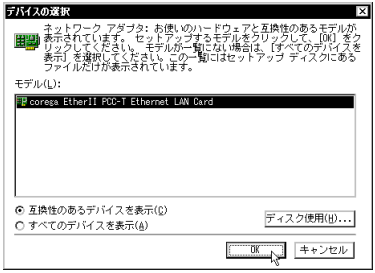


図 3.3.0.6 選択するドライバーの確認

(9) 次のダイアログで、「ドライバのある場所」が「**A:\WINDOWS.98\NETCOKK.INF**」(PC-9800/PC-9821 では「B: \WINDOWS.98\NETCOKK.INF」) となっていることを確認し、「次へ>」ボタンをクリックしてください。

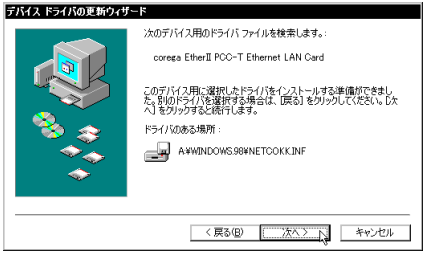


図 3.3.0.7 ドライバーファイルの検索開始

(10) 途中で、次のようなダイアログが表示される場合は、フロッピーディスクドライブに本製品のドライバーディスクが入っていることを確認し、「ディスクの挿入」ダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。

図 3.3.0.8 ドライバーディスクの要求

次のダイアログが表示される場合は、「ファイルのコピー元」にパスの指定を、「**A:\windows.98**」と入力し「OK」ボタンをクリックしてください。ここでは、フロッピーディスクドライブを A: と仮定します。

注意

ファイル「copcc2.sys」は、Windows98 の CD-ROM 上のファイルとして説明されていますが、実際は、本製品に添付されている、corega EtherII PCC-T 用のドライバーディスクの中に収められています。

図 3.3.0.9 本製品のドライバーの所在

また、次のようなダイアログが表示される場合、Windows98 の CD-ROM が CD-ROM ドライブに挿入されていることを確認し、「ディスクの挿入」ダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。

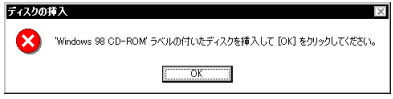


図 3.3.0.10 Windows98 の CD-ROM の要求

次のダイアログが表示される場合は、「ファイルのコピー元」に「**D:\WIN98**」を入力してください。ここでは CD-ROM ドライブを「D:」、AT 互換機を仮定します。PC-9800/PC-9821 の場合は、「**Q:\WIN98N**」を指定してください。

図 3.3.0.11 Windows98 のファイルの所在の指定

注意

ご使用のコンピュータがプリインストール版である場合、「ファイルのコピー元」として「C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」を入力してください。
（AT 互換機/PC98-NX）PC-9800/PC-9821 では、
「A:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」を入力してください。

(11)「完了」ボタンをクリックしてください。

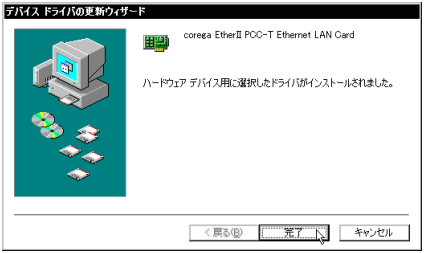


図 3.3.0.12 更新の完了

(12) フロッピーディスクドライブからドライバーディスクを取り出し、「はい」ボタンをクリックしてください。コンピュータは、更新されたドライバーを使用して再起動します。

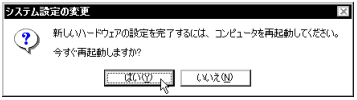


図 3.3.0.13 再起動の確認

(13)「3.2 インストールの確認とアダプターの設定」（p.25）を実行してください。

3.4 ドライバーの削除

ドライバーの再インストールを行う場合、ドライバーを一旦削除してから行います。ドライバーのインストールに失敗した場合も、この手順にならい、間違ってインストールされたドライバーを削除してから、あらためてインストール作業を行います。

(1) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進みます。「ネットワーク アダプタ」をダブルクリックすると表示される「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」を選択して、「削除」ボタンをクリックしてください。

図 3.4.0.1 削除ボタンをクリック

(2) 次のダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。

図 3.4.0.2 デバイス削除の確認

(3) 次のダイアログが表示されたら、「いいえ」ボタンをクリックしてください。

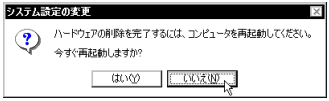


図 3.4.0.3 再起動では「いいえ」を選択

(4) 「ネットワークアダプタ」の下から本製品のアイコンが消えていることを確認し、「閉じる」ボタンをクリックしてください。

図 3.4.0.4 削除後のデバイスマネージャ

(5) Windows98 を終了し（「スタート」→「Windows の終了」→「電源を切れる状態にする」→「OK」ボタン）、コンピュータの電源をオフにします。

(6) コンピュータの PC カード取り外しボタンを押し、本製品を取り外してください。次回の Windows98 起動時から、本製品のドライバーがインストールされていない状態となります。

3.5 ドライバーの再インストール

ドライバーを再インストールする手順は以下の通りです。

(1) 「3.4 ドライバーの削除」（p.36）の手順にしたがい、本製品のドライバーを削除します。

(2) Windows98 を再起動し、本製品をコンピュータの PC カードスロットに挿入し、「3.1.2 新規インストール」(p.19)の手順を参考に、ドライバーをインストールします。本製品のドライバーが自動的にインストールされてしまう場合には、「3.3 ドライバーの更新」（p.30）を参照して、ドライバーの更新作業を行ってください。

3.6 ドライバーのトラブル

ここでは、ドライバーのインストールに伴うトラブルの代表的な例と、その対処法について説明します。

注意

以下の手順は、本製品を PC カードスロットに取り付けた状態で行ってください。

3.6.1 本製品を認識しない

「正常にインストールできない」場合や、**「PC カードが検出されない」**場合、また「3.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認」（p.25）にしたがって確認を行うと、「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」 アイコンが以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗しています。

- 「ネットワークアダプタ」の項目がない
- 「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入ってしまった
- デバイスマネージャで「！」「？」マークが付く
- 「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」 アイコンが２つ以上ある

「ネットワークアダプタ」の項目がないとか、本製品のアイコンが「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入ってしまう原因として、ドライバーのインストール中に行われる Windows98 関連ファイル（netapi.dll など）のインストールをキャンセルしてしまった場合などが考えられます。

コンピュータの機種によっては、本製品を PC カードスロットに挿入するときに、挿しにくい場合もありますが、本製品は、PCカードスロットの奥までしっかりと押し込むようにしてください。(奥までしっかり挿されていないと、本製品が認識されないことがあります。)

このようなときは、ドライバーを一旦削除し、再インストールを行います。以下の手順を実行してください。

(1) 不正にインストールされた「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」アイコンを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

(2) 「3.5 ドライバーの再インストール」(p.38) の手順にしたがって、ドライバーをインストールしなおしてください。

3.6.2 デバイスマネージャで「×」が付く

デバイスマネージャの「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」アイコンに「×」マークが付いている場合は、デバイスが「使用不可」に設定されています。以下の手順にしたがって使用許可の状態に切り替えてください。

(1) 「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」を選択 (反転表示) し、「プロパティ」ボタンをクリックし、「全般」タブを表示します (図 3.2.1.3 参照)。

(2) 「デバイスの使用」欄の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェック「✓」を外してください。

3.6.3 PCMCIA コントローラが正しく表示されない

本製品のドライバーは、PCMCIA コントローラと協調して動作します。そのため、PCMCIA コントローラが正しくインストールされていない状況では、本製品のドライバーは動作することができません。

ご使用のコンピュータの PCMCIA コントローラ専用ドライバーが、フロッピーディスクなどで提供されていることがあります。 以下で説明する手順を実行する前に、必ずご使用のコンピュータのマニュアルを確認し、そのマニュアルに記載されている手順で PCMCIAコントローラの再インストールを行ってください。また、専用のドライバーが提供されていない場合は、どのようなドライバーがインストールされているかを記録した後 (下記参照)、以下の手順を実行してください。

このようなときは、Windows98 のシステムレポート出力機能を利用すると便利です。レポートを出力するには、「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」とたどり、「印刷」ボタンをクリックします。「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要」を選択し、以後画面の指示にしたがってください。

CardBus 対応のコンピュータ機種には、使用する PC カードに応じて 2 種類（16bit/32bit）の PCMCIA コントローラを切り替えなければならないものがありますのでご注意ください。詳細は、ご使用のコンピュータのマニュアルもしくは、コンピュータのメーカーにご確認ください。

「1. デバイスマネージャによるインストールの 確認」（「3.2 インストールの確認とアダプターの設定」（p.25）参照）にしたがってインストールの確認を行った際に、「PCMCIA ソケット」の下に表示される PCMCIA コントローラのアイコンに「？」、「!」のマークが付いている場合は、次の手順を実行してみてください。

(1) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進みます。

(2) 「PCMCIA ソケット」の下にある PCMCIA コントローラを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

(3) 「デバイス削除の確認」ダイア ログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。

(4) 「デバイスマネージャ」から「PCMCIA ソケット」のアイコンが消えていることを確認します。

(5) Windows98 を終了し、コンピュータの電源をオフにした後、本製品を PC カードスロットから取り外します。

(6) 再びコンピュータの電源をオンにします。「コントロールパネル」ウィンドウを表示し、「PC カード (PCMCIA)」アイコンが消えていることを確認します。

Plug & Play 機能により、ドライバーを自動的に読み込んでしまうコンピュータ機種もあります。

(7) 「ハードウェアの追加」アイコン（コントロールパネル）をダブルクリックしてください。「ハードウェアの追加ウィザード」が起動したら、「次へ >」ボタンをクリックしてください（「ハードウェアウィザード」の実行には数分の時間がかかります）。

(8) 「はい（通常はこちらを選んでください）」を選択し、続く 2 つの質問に対して「次へ>」ボタンをクリックして進みます。最後に「完了」ボタンをクリックしてハードウェアウィザードを終了してください。

(9) 続いて、自動的に「PC カード（PCMCIA）ウィザード」が起動します。表示されるメッセージにしたがって操作してください。

3.6.4 リソース値重複の回避

前述の 手順にしたがってドライバーの削除および再インストール作業を行っても、なおアイコンに「?」、「!」 マークが付いている場合は、 他の拡張アダプターとリソースの値が重複している可能性があります。

特に、Plug & Play に対応していない他の拡張アダプターを本製品とともに使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値を Windows98 に予め登録（「予約」と呼びます）し、 その値が他の Plug & Play 対応デバイス（本製品を含む）によって使用されないように設定することで、 値の 重複を回避できます。

(1) Plug & Play 非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値(インタラプト (IRQ)、I/O ベースアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス（DMA)）を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧ください。または、メーカーにお問い合わせください。

(2) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピュータ」→「コンピュータのプロパティ」パネル→「リソースの予約」と進みます。

(3) 該当する項目を選択し、「追加」ボタンを クリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。

4 Windows95

■バージョンを確認してください

Windows95 には、いくつかのバージョンが存在します。初めに、ご使用の Windows95 のバージョンを、「システム」（コントロールパネル）で確認します。「スタート」→「コントロールパネル」→「システム」→「情報」と進み、システムの番号を確認してください。

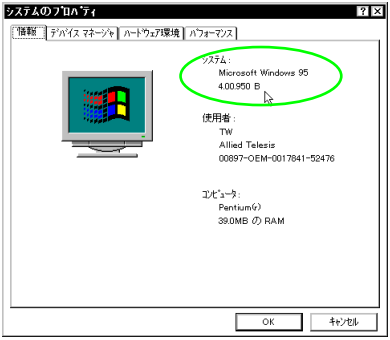


図 4.0.0.1 システムのバージョン確認

注意 **ここでは、Version B(OSR2) での手順に従って説明します。Version B/C のインストール手順は同じですが、Version A の場合は手順が異なりますので、その場合には、注意の説明を参照してください。**

注意 以下に挙げる内容は一例です。お客様の環境によっては、手順などが若干異なることがあります。（本書に掲載した画面は AT 互換機のものです。PC-9800/PC-9821 の場合はディスクドライブ名が異なります。）

4.1 ドライバーのインストール

4.1.1 用意するもの

- EtherII PCC-T カード本体

- コンピュータ（Windows95 インストール済み）
- EtherII PCC-T ドライバーディスク（本製品に付属）
- Windows95 の CD-ROM またはフロッピーディスク

注意

Windows95 が、コンピュータ購入時にあらかじめインストールされた形態で提供されたもの、すなわちプリインストール版である場合は、Windows95 のバックアップ CD-ROM が付属しているかどうかをご確認ください。バックアップ CD-ROM が付属していない場合は、安全のため必ずフロッピーディスクに Windows95 のバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。バックアップの手順については、ご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

4.1.2 新規インストール

(1) コンピュータの電源をオンにし、Windows95 を起動してください。

(2) コンピュータの PC カードスロットに本製品を挿入してください。

(3) Windows95 は、本製品を自動的に検出し、「デバイスドライバウィザード」が起動します。本製品のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、「次へ>」ボタンをクリックしてください。

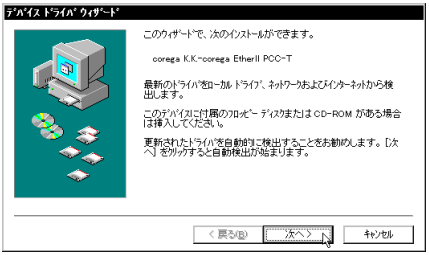


図 4.1.2.1 「デバイスドライバウィザード」の起動

注意

Version 950/A の場合は、「新しいハードウェア」ダイアログが表示されます。「ハードウェアの製造元が供給するドライバ(M)」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
続いて、「フロッピーディスクからインストール」ダイアログが表示されますので、フロッピーディスクドライブに本製品のドライバーディスクを入

れ、「A:\windows.95」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。その後は、手順 (5) に進んでください。

(4) 「デバイスドライバウィザード」は下の画面を表示します。画面の内容を読んだ上で、「完了」ボタンをクリックしてください。

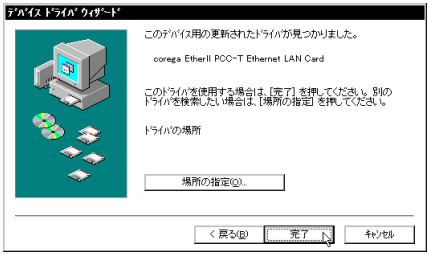


図 4.1.2.2 インストールするドライバーの確認

自動検索を使わず、「場所の指定 (O)...」ボタンを使ってディレクトリを直接指定することもできます。この場合はディレクトリとして「A:\windows.95」を入力してください。

(5) 途中で、次のようなダイアログが表示される場合は、フロッピーディスクドライブに本製品のドライバーディスクが入っていることを確認し、「ディスクの挿入」ダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。

図 4.1.2.3 ドライバーディスクの要求

次のダイアログが表示される場合は、「ファイルのコピー」ダイアログで、「ファイルのコピー元」にパスの指定を、「**A:\windows.95**」と入力し「OK」ボタンをクリックしてください。ここでは、フロッピーディスクドライブを A: と仮定します。

注意 **ファイル「copcc2.sys」は、Windows95 の CD-ROM 上のファイルとして説明されていますが、実際は、本製品に添付されている、corega EtherII PCC-T 用のドライバーディスクの中に収められています。**

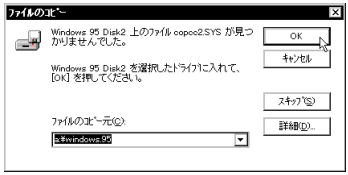


図 4.1.2.4 ファイルのコピー元の指定（本製品）

また、次のようなダイアログが表示される場合、Windows95 の CD-ROM が CD-ROM ドライブに挿入されていることを確認し、「ディスクの挿入」ダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。

図 4.1.2.5 Windows95 ディスクの挿入

注意

次のダイアログが表示される場合は、「ファイルのコピー元」に「**C:\windows\options\cabs**」を入力してください（AT 互換機 /PC98-NX）。PC-9800/PC-9821 では「A:\windows\options \cabs」となります。

図 4.1.2.6 パスの指定（プリインストール版）

注意

インストール元のメディアとして CD-ROM、フロッピーディスクを使用する場合は、以下のようにパスを指定してください。

■フロッピーディスクの場合

指示された番号のディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「ファイルのコピー元：」で「A:\」を入力してください。通常、drv: は AT 互換機

/PC98-NX では A:、PC-9800/PC-9821 では B: となります。

■ CD-ROM の場合

CD-ROM をドライブに挿入し、「D:\WIN95」を入力してください。(ここでは、CD-ROM ドライブを D: と仮定します。)

(6) コピーが終了すると、次のダイアログが表示されますので、コンピュータ名、ワークグループ名、コンピュータの説明（省略可）の入力をします。これらの情報については、お客様の環境におけるシステム管理者にご相談ください。
ピアツーピア接続する場合のユーザー情報の設定 に関しては、「C ネットワークの設定」（p.110）を参照してください。

図 4.1.2.7 「ユーザー情報」の入力

コンピュータ名およびワークグループ名の入力には、15 文字以下の半角文字を使用します。詳細は、Windows95 のマニュアルおよびオンラインヘルプをご覧ください。また、このダイアログをインストール後に変更する場合は、「コントロールパネル」→「ネットワーク」を起動し、「ユーザー情報」タブを選択してください（既にこのダイアログの内容が設定されている場合、このダイアログはドライバーのインストール中に表示されません)。

(7) ダイアログ「システム設定の変更」が表示されます。フロッピーディスクドライブからドライバーディスクを抜き、「今すぐ再起動しますか？」という問いに対して、「はい(Y)」ボタンをクリックし、再起動してください。以上でインストールは終了です。

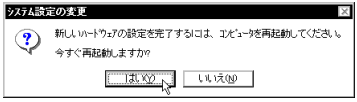


図 4.1.2.8 システム設定の変更確認

注意

ご使用のコンピュータに既に他のネットワークアダプターのドライバをインストールしたことがある場合、このダイアログが表示されないこともあります。この場合も必ず再起動して、本製品のドライバーを有効化してください。

注意

インストール後の再起動時に、次のようなダイアログが表示されることがあります。その場合は、「いいえ」ボタンをクリックしてください。LAN 環境で TCP/IP をご使用になる場合は、DHCP の設定に関してシステム管理者にご相談ください。

図 4.1.2.9 DHCP のメッセージ

4.2 インストールの確認とアダプターの設定

はじめにドライバーのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

4.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認

(1) コンピュータの再起動が完了したら、「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。

(2) 「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。インストールが正常に行われていれば、「PCMCIA ソケット」の下にご使用のコンピュータにインストールされている PCMCIA コントローラの名前が、「ネットワークアダプタ」の下に「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」が表示されます。

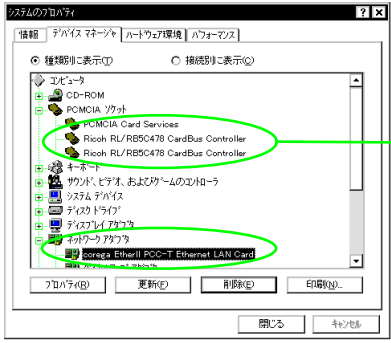


図 4.2.1.1 デバイスマネージャ

注意

ご使用のコンピュータが CardBus 対応モデルであり、かつ PCMPIA コントローラが 16bit/32bit 共用タイプである場合、PCMCIA コントローラは同じ名称が 2 列以上表示されます。

本製品のアイコンに「?」「!」のマークがついていたり、「その他のデバイス」「不明なデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、「4.5 ドライバーのトラブル」（p.55）をご覧ください。

(3) 「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」を選択（反転表示）し、「プロパティ」ボタンをクリックしてください。「情報」タブを選択し、「デバイスの状態」欄に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認してください。

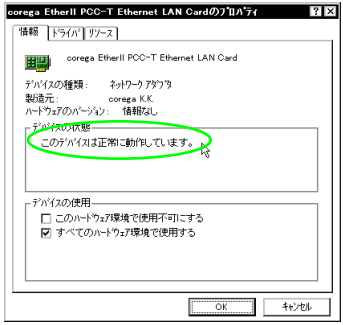


図 4.2.1.2 本製品のプロパティ（「情報」タブ）

注意

Version B/C で、「ドライバ」タブを選択すると、「このデバイスにはドライバファイルが必要でないか、または組み込まれていません。」というメッセージが表示されることがありますが、使用上、支障はありません。安心してご使用ください。

(4) 本製品が使用する I/O アドレス、インタラプト（IRQ）などは Windows95 によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これらを確認することができます。
次の図 4.2.1.3 は、リソースの「I/O ポートアドレス」が「0340 - 035F」、「IRQ」が「10」に、自動的に設定された場合の表示例です。

図 4.2.1.3 本製品のプロパティ（「リソース」タブ）

4.2.2 PC カード（PCMCIA）による確認

「コントロールパネル」の「PC カード（PCMCIA）」をダブルクリックします。「ソケットの状態」タブを選択し、該当するソケットに「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」が表示されていることを確認します。

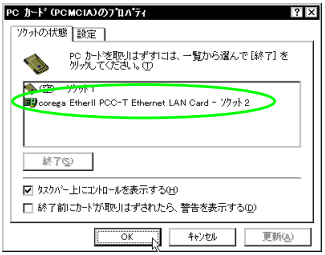


図 4.2.2.1 ソケットの状態

4.2.3 ネットワークの設定

「コントロールパネル」 の 「ネットワーク」 をダブルクリックし、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。インターネットへのアクセスを行うためには（WWW ブラウザーなどをご使用になるためには）、TCP/IP プロトコルが必須です。設定に関する詳細は、お客様の 環境におけるシステム管理者にご相談ください。

ピアツーピア接 続（ディスクの共有やプリンタの共有） の設定に関しては、「C ネットワークの設定」（p.110）を参照してください。

図 4.2.3.1 プロトコルなどの設定

必要な設定を終えたら、「ネットワーク」 ダイアログの 「OK」 ボタンをクリックしてください。再起動を促すダイアログが表示されます。 設定内容は、再起動後から有効となります。

4.3 ドライバーの削除

(1) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進み、「ネットワークアダプタ」の下から項目「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」を選択し、「削除（E)」ボタンをクリックしてください。

図 4.3.0.1 システムのプロパティ（削除）

(2) 下のダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。

図 4.3.0.2 デバイス削除の確認

注意

Windows95 Version C の場合、削除に関する選択肢が表示されますので、「すべての設定から削除」ラジオボタンを選択して、「OK」ボタンをクリックしてください。

(3) 「ネットワークアダプタ」のアイコンが消えたことを確認し、「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリックしてください。

図 4.3.0.3 削除後のデバイスマネージャ

(4) タスクバーの PC カードアイコンをダブルクリックします。

図 4.3.0.4 PC カードアイコン

(5) 「PC カード（PCMCIA）のプロパティ」が表示されます。本製品が挿入されていたソケットの表記が「-」（画面では「 - ソケット 2」）となっています。該当するソケットを選択して、「終了」ボタンをクリックしてください。

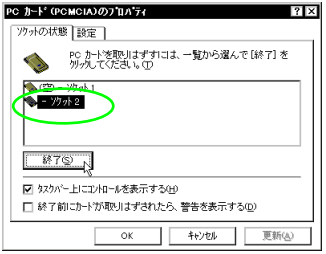


図 4.3.0.5 デバイス削除後の「ソケットの状態」

(6) 「OK」ボタンをクリックしてください。

図 4.3.0.6 PC カード取り外しの確認

(7) PC カードスロットから本製品を抜きます。

(8) 「PC カード（PCMCIA）のプロパティ」の「ソケットの状態」で該当スロットが「空」と表示されます。

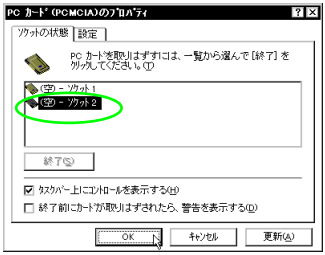


図 4.3.0.7 取り外し後の「ソケットの状態」

(9) タスクバー上で PC カードアイコンが消えていることもご確認ください。以上で削除の手続きは終了です。

図 4.3.0.8 PC カード取り外し後のタスクバー

4.4 再インストール

ドライバーを再インストールする手順は以下の通りです。

(1) 「4.3 ドライバーの削除」（p.51）の手順にしたがい、本製品のドライバーを削除します。

(2) 「4.1.2 新規インストール」（p.43）の手順にしたがい、本製品のドライバーをインストールします。

4.5 ドライバーのトラブル

ここでは、ドライバーのインストールに伴うトラブルの代表的な例と、その対処法について説明します。

注意

以下の手順は、本製品を PC カードスロットに取り付けた状態で行ってください。

4.5.1 本製品を認識しない

「正常にインストールできない」場合や、**「PC カードが検出されない」**場合、また「4.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認」（p.47）にしたがって確認を行うと、「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」 アイコンが以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗しています。

- 「ネットワークアダプタ」の項目がない
- 「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入ってしまった
- デバイスマネージャで「！」「？」マークが付く
- 「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」 アイコンが２つ以上ある

「ネットワークアダプタ」の項目がないとか、本製品のアイコンが「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入ってしまう原因として、ドライバーのインストール中に行われる Windows95 関連ファイル（netapi.dll など）のインストールをキャンセルしてしまった場合などが考えられます。

注意

コンピュータの機種によっては、本製品を PC カードスロットに挿入するときに、挿しにくい場合もありますが、本製品は、PCカードスロットの奥までしっかりと押し込むようにしてください。(奥までしっかり挿されていないと、本製品が認識されないことがあります。)

このようなときは、ドライバーを一旦削除し、再インストールを行います。以下の手順を実行してください。

(1) 不正にインストールされた「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」アイコンを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

(2) 「4.4 再インストール」(p.55) の手順にしたがって、ドライバーをインストールしなおしてください。

4.5.2 デバイスマネージャで「×」が付く

デバイスマネージャの「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」アイコンに「×」マークが付いている場合は、デバイスが「使用不可」に設定されています。以下の手順にしたがって使用許可の状態に切り替えてください。

(1) 「corega EtherII PCC-T Ethernet LAN Card」を選択 (反転表示) し、「プロパティ」ボタンをクリックし、「情報」タブを表示します (図 4.2.1.2 参照)。

(2) 「デバイスの使用」欄の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェック「✓」を外してください。

4.5.3 PCMCIA コントローラが正しく表示されない

本製品のドライバーは、PCMCIA コントローラと協調して動作します。そのため、PCMCIA コントローラが正しくインストールされていない状況では、本製品のドライバーは動作することができません。

警告

ご使用のコンピュータの PCMCIA コントローラ専用ドライバーが、フロッピーディスクなどで提供されていることがあります。 以下で説明する手順を実行する前に、必ずご使用のコンピュータのマニュアルを確認し、そのマニュアルに記載されている手順で PCMCIAコントローラの再インストールを行ってください。また、専用のドライバーが提供されていない場合は、どのようなドライバーがインストールされているかを記録した後 (下記参照)、以下の手順を実行してください。

このようなときは、Windows95 のシステムレポート出力機能を利用すると便利です。レポートを出力するには、「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」とたどり、「印刷」ボタンをクリックします。「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要」を選択し、以後画面の指示にしたがってください。

注意

CardBus 対応のコンピュータ機種には、使用する PC カードに応じて 2 種類（16bit/32bit）の PCMCIA コントローラを切り替えなければならないものがありますのでご注意ください。詳細は、ご使用のコンピュータのマニュアルもしくは、コンピュータのメーカーにご確認ください。

「1. デバイスマネージャによるインストールの 確認」（「4.2 インストールの確認とアダプターの設定」（p.47）参照）にしたがってインストールの確認を行った際に、「PCMCIA ソケット」の下に表示される PCMCIA コントローラのアイコンに「?」、「!」のマークが付いている場合は、次の手順を実行してみてください。

(1) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進みます。

(2) 「PCMCIA ソケット」の下にある PCMCIA コントローラを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

(3) 「デバイス削除の確認」ダイア ログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。

(4) 「デバイスマネージャ」から「PCMCIA ソケット」のアイコンが消えていることを確認します。

(5) Windows95 を終了し、コンピュータの電源をオフにした後、本製品を PC カードスロットから取り外します。

(6) 再びコンピュータの電源をオンにします。「コントロールパネル」ウィンドウを表示し、「PC カード (PCMCIA)」アイコンが消えていることを確認します。

Plug & Play 機能により、ドライバーを自動的に読み込んでしまうコンピュータ機種もあります。

(7) 「ハードウェアの追加」アイコン（コントロールパネル）をダブルクリックしてください。「ハードウェアの追加ウィザード」が起動したら、「次へ >」ボタンをクリックしてください（「ハードウェアウィザード」の実行には数分の時間がかかります）。

(8) 「はい（通常はこちらを選んでください）」を選択し、続く 2 つの質問に対して「次へ>」ボタンをクリックして進みます。最後に「完了」ボタンをクリックしてハードウェアウィザードを終了してください。

(9) 続いて、自動的に「PC カード（PCMCIA）ウィザード」が起動します。表示されるメッセージにしたがって操作してください。

4.5.4 リソース値重複の回避

前述の 手順にしたがってドライバーの削除および再インストール作業を行っても、なおアイコンに「?」、「!」 マークが付いている場合は、 他の拡張アダプターとリソースの値が重複している可能性があります。

特に、Plug & Play に対応していない他の拡張アダプターを本製品とともに使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値を Windows95 に予め登録（「予約」と呼びます）し、 その値が他の Plug & Play 対応デバイス（本製品を含む）によって使用されないように設定することで、 値の 重複を回避できます。

(1) Plug & Play 非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値（インタラプト（IRQ）、I/O ベースアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス（DMA））を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧ください。または、メーカーにお問い合わせください。

(2) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピュータ」→「コンピュータのプロパティ」パネル→「リソースの予約」と進みます。

(3) 該当する項目を選択し、「追加」ボタンを クリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。

5 Windows NT Ver. 4.0

本製品のドライバーを Windows NT Ver.4.0 上にインストールする手順を説明します。 なお、本マニュアルでは、Windows NT Workstation を用いて説明を行います。

5.1 準備と確認

本製品のインストールを始める前に、以下のことをご確認ください。

各操作・設定の手順については Windows NT のマニュアル・ヘルプをご覧ください。

Windows NT のハードウェア互換性リスト（Windows NT パッケージに同梱されています）に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

本マニュアルに記載した内容は一例であり、お客様の使用するコンピュータやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。 予めご了承ください。

本製品のインストールを Windows NT のインストールと同時に行うことは避けてください。必ず、Windows NT のインストールを完了したあとで、本製品のインストールを行ってください。Windows NTは Plug&Play をサポートしていないため、Windows NT と本製品のインストールを同時に行うと、Windows NT のインストール中に本製品が使用するハードウェアリソースが他のデバイスと重複するおそれがあり、重複の回避に手間取ることがあります。

Windows NT では活線挿抜（コンピュータの電源をオンにしたままでカードの抜き挿しを行うこと）はできません。本製品の挿抜を行う際には必ずコンピュータの電源がオフになっていることをご確認ください。 誤って活線挿抜を行った場合に起こった障害については ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

5.2 ドライバーのインストール

ここでは、「ネットワークアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」 場合のインストール手順について説明します。また、 Windows NT が要求する問い合わせに対して、基本的にはデフォルトで答えると仮定しています。

「ネットワークアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」場合とは、「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない(D)」を選択したとき、このダイアログが表示されます。

5.2.1 用意するもの

- EtherII PCC-T カード本体・メディアケーブル等
- コンピュータ（Windows NT 4.0 インストール済み）
- Windows NT の CD-ROM
- ドライバーディスク（2 種類のディスクが付属しています。コンピュータ機種に応じてご使用ください）

5.2.2 リソースの確認

5.2.2.1概要

Windows NT は Plug & Play をサポートしていないため、本製品が使用するリソースの値をドライバーのインストール時に設定する必要があります。そのため、ドライバーをインストールする前にリソースの空き状況を調べる必要があります。

本製品のドライバーに組み込まれているリソースの工場出荷時の値（「5.2.2.2 リソースの値」参照）が、他のデバイスによって既に使用されている場合は重複を避けるため本製品の使用する値を変更します。（設定はドライバーのインストール時に表示される設定ダイアログで行います。）そのため、ドライバーをインストールする前に値が重複していないかを確認し、重複している場合は空いている値を調べてください。

リソースの状況を調べるには、コンピュータメーカーで予め定めてあるデバイスについてはコンピュータのマニュアルをご覧ください。また、本製品を含む拡張デバイスが追加されているコンピュータについては「Windows NT 診断プログラム」（「5.2.2.3 Windows NT 診断プログラムの使用方法」参照）を使用するとそれらの拡張デバイスを含む、リソースの割り当て状況を確認できます。

注意

コンピュータに予め組み込まれているデバイスの中には「Windows NT 診断プログラム」上に表示されないものがありますので、必ずコンピュータのマニュアルと「Windows NT 診断プログラム」の 2 つを用いて確認を行ってください。

5.2.2.2リソースの値

工場出荷時の 値および 設定可能な値の範囲は以下の通りです。() 内の表記は、16 進数です。

- I/O ベースアドレス
  初期設定値　　0x300
  設定可能な値　　0x200、0x220、0x240、0x260、0x280、0x2A0、0x2C0、0x2E0、0x300、0x320、0x340、0x360、0x380、0x3A0、0x3C0、0x3E0
- IRQ（AT 互換機 /PC98-NX）
  初期設定値　　10(A)
  設定可能な値　　3, 4, 5, 7, 9, 10(A), 11(B), 15(F)
- IRQ（PC-9800/PC-9821）
  初期設定値　　5
  設定可能な値　　3, 5, 6, 10(A), 12(C)

5.2.2.3Windows NT 診断プログラムの使用方法

ここではＡＴ互換機を使用して説明します。

(1) 「スタート」→「プログラム」→「管理ツール」→「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。

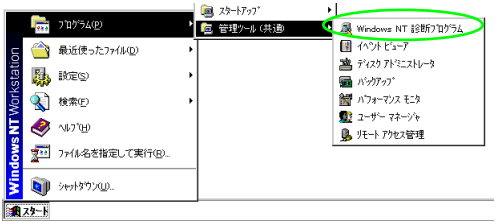


図 5.2.2.1 Windows NT 診断プログラムの起動

(2) 「リソース」タブを選択します。この段階では「IRQ」（インタラプト）の画面が表示されています。IRQ の空き状況を確認してください。

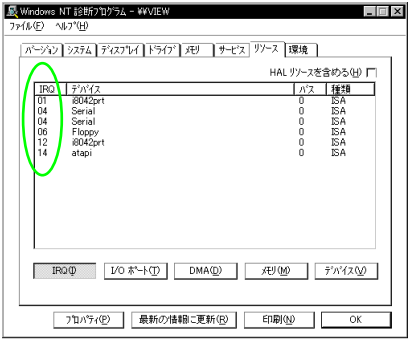

Windows NT 診断プログラム - WVIEW
ファイル(F) ヘルプ(H)
バージョン システム ディスプレイ ドライブ メモリ サービス リソース 環境
HAL リソースを含める(H)
IRQ デバイス バス 種類
01 i8042prt 0 ISA
04 Serial 0 ISA
04 Serial 0 ISA
06 Floppy 0 ISA
12 i8042prt 0 ISA
14 atapi 0 ISA
IRQ(I) I/O ポート(T) DMA(D) メモリ(M) デバイス(V)
プロパティ(P) 最新の情報に更新(R) 印刷(N) OK

図 5.2.2.2 リソースの表示（IRQ）

(3) 「I/O ポート」タブを選択し、I/O Base Address (「アドレス」の先頭値）の空き状況を確認してください。

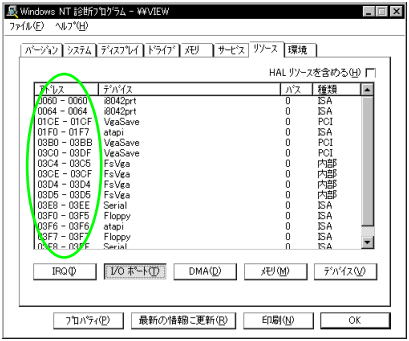

Windows NT 診断プログラム - WVIEW
ファイル(F) ヘルプ(H)
バージョン システム ディスプレイ ドライブ メモリ サービス リソース 環境
HAL リソースを含める(H)
アドレス デバイス バス 種類
0060 - 0060 i8042prt 0 ISA
0064 - 0064 i8042prt 0 ISA
01CE - 01CF VgaSave 0 PCI
01F0 - 01F7 atapi 0 ISA
03B0 - 03BB VgaSave 0 PCI
03C0 - 03DF VgaSave 0 PCI
03C4 - 03C5 FsVga 0 内部
03CE - 03CF FsVga 0 内部
03D4 - 03D4 FsVga 0 内部
03D5 - 03D5 FsVga 0 内部
03E8 - 03EF Serial 0 ISA
03F0 - 03F5 Floppy 0 ISA
03F6 - 03F6 atapi 0 ISA
03F7 - 03F7 Floppy 0 ISA
IRQ(I) I/O ポート(T) DMA(D) メモリ(M) デバイス(V)
プロパティ(P) 最新の情報に更新(R) 印刷(N) OK

図 5.2.2.3 リソースの表示（I/O Base Address）

(4) Windows NT 診断プログラムを終了します。

5.3 ドライバーの新規インストール

(1) コンピュータの電源をオフにし、本製品をコンピュータの PC カードスロットに挿入します。

(2) 本製品をネットワークに接続します。

(3) 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」と進み、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。

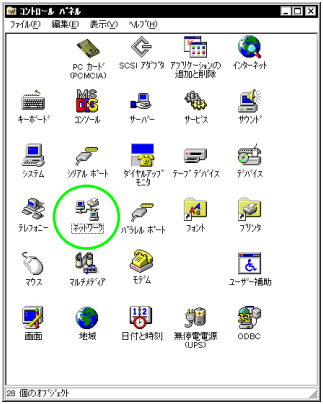


図 5.3.0.1 「ネットワーク」（コントロール パネル）

(4) 下のダイアログが表示されます。「今すぐインストールしますか？」の問いに対して、「はい (Y)」ボタンをクリックしてください。

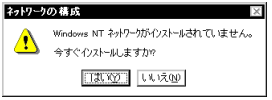


図 5.3.0.2 ネットワークのインストール開始

注意

「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない (D)」を選択したとき、このダイアログが表示されます。このダイアログではなく「ネットワーク」パネルが表示された場合は、既にネットワークに関する WindowsNT ファイルがインストールされています。この場合は「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブ→「追加」と進むと、手順 (7) の図 5.3.0.5 の画面が表示され、本製品のみのインストールが始まります。

(5) 「ネットワークセットアップウィザード」ダイアログが表示されます。「ネットワークに接続 (W):」にチェックマークを付け、「次へ (N)>」ボタンをクリックしてください。

図 5.3.0.3 「ネットワークウィザード」の起動

(6) 次の画面が表示されたら、「一覧から選択 (S)...」ボタンをクリックしてください。

図 5.3.0.4 ネットワークアダプタは一覧から選択

(7) 「ディスク使用」ボタンをクリックしてください。

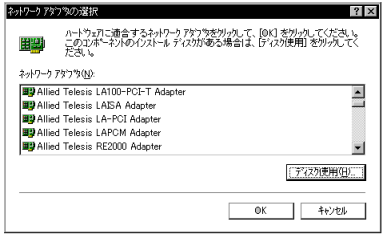


図 5.3.0.5 ネットワークアダプタの選択にディスクを使用

(8) 次のダイアログが表示されますので、ドライバーディスクをディスクドライブに挿入し、パス「A:\windows.nt」を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。（ここでは、フロッピーディスクドライブを A: と仮定します。）

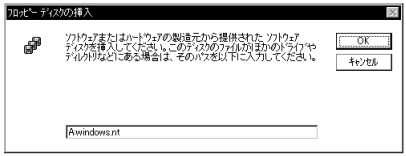


図 5.3.0.6 ドライバーファイルの所在の指定

(9) 「corega EtherII PCC-T Adapter」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

図 5.3.0.7 選択するドライバーを確認

(10)「ネットワークアダプタ (A):」の「corega EtherII PCC-T Adapter」にチェックマークを付け、「次へ (N):」ボタンをクリックしてください。

図 5.3.0.8 ドライバーファイルの検索開始

(11) 使用するネットワークプロトコルにチェックマークを付け、「次へ (N):」ボタンをクリックしてください。(詳細はシステム管理者にご相談ください。) ここでは、「TCP/IP プロトコル」のみをチェックすると仮定します。

図 5.3.0.9 使用するネットワークプロトコルをチェック

(12) 使用するサービスを設定し、「次へ (N)>」ボタンをクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなサービスが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。

図 5.3.0.10 使用するサービスをチェック

(13) メッセージを確認して、「次へ (N)>」ボタンをクリックしてください。

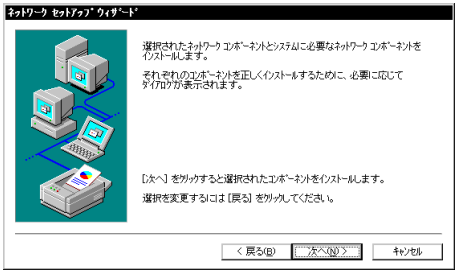


図 5.3.0.11 ネットワークコンポーネントのインストール開始

(14) Windows NT のインストール元のディレクトリを指定してください。AT 互換機の場合は「\I386」、PC-98 の場合は「\PC98」となります。(ここでは CD-ROM のドライブ名を D: と仮定します。)

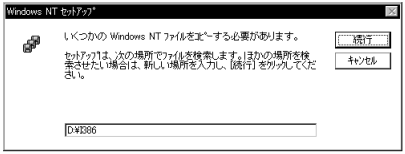


図 5.3.0.12 WindowsNT ファイルの所在の指定

(15) 続いて、本製品の設定画面が表示されます。「**IRQ**（インタラプト）」と「**IOBase Address**（I/O ベースアドレス）」は他のデバイスと重複しない適切な設定値を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。下記画面は、**AT 互換機 /PC98-NX** におけるデフォルトの例です。**PC-9800/PC-9821** の場合、デフォルトの IRQ は「**5**」となります。

DIRECT ENABLER に関する項目（PCIC Base Address、PCMCIA Slot）はデフォルトのままご使用ください。これらの項目は、Windows NT Version 4.0 により自動的に設定されるため、お客様による設定は不要です。

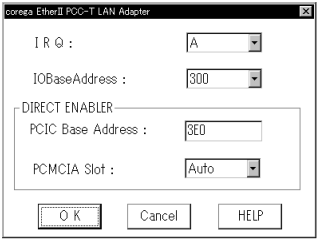


図 5.3.0.13 本製品の設定確認（AT 互換機 /PC98-NX の例）

(16) ドライバーおよび Windows ファイルのコピーが始まります。手順 (11) で「TCP/IP」を選択した場合はここで「DHCP を使用するか？」を質問されます。ここでは、デフォルトである「いいえ (N)」ボタンをクリックすると仮定します。

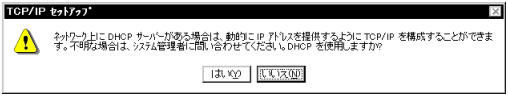


図 5.3.0.14 DHCP メッセージ

(17) 手順 (16) で「DHCP を使用しない」設定とした場合は「TCP/IP のプロパティ」として IP アドレスなどの値を設定しなければなりません。これらの値は、お客様の環境における値を入力してください。

図 5.3.0.15 TCP/IP の設定（「IP アドレス」タブ）

(18) DNS (Domain Name System) の設定をします。「DNS」のタブをクリックして、各項目を設定してください。下は起動時の画面です。

図 5.3.0.16 TCP/IP の設定（「DNS」タブ）

(19) 続いて、「WINS（Windows Internet Name Service）アドレス」の設定を行います。次の画面では、「Windows 名前解決に DNS を使う (N)」を選択すると仮定しました。

図 5.3.0.17 TCP/IP の設定（「WINS アドレス」タブ）

必要であれば、さらに「ルーティング」の設定を行い、最後に「OK」ボタンをクリックしてください。これらの設定の詳細についてはシステム管理者にご確認ください。

注意

この画面は Windows NT Workstation のものです。Windows NT Server をご使用の場合はさらに「DHCP リレー」タブがあります。DHCP リレーについての詳細は Windows NT Server のマニュアルまたはオンラインヘルプをご覧ください。

(20)「次へ (N)」ボタンをクリックしてください。

図 5.3.0.18 バインドの確認

(21)「次へ (N)」ボタンをクリックしてください。

図 5.3.0.19 ネットワーク起動の確認

(22)「次へ (N)」ボタンをクリックしてください。ここでは「ワークグループ (W)」をそのまま使用すると仮定します。詳細はシステム管理者にご確認ください。

図 5.3.0.20 ワークグループなどの確認

(23)「完了」ボタンをクリックしてください。

図 5.3.0.21 インストールの完了

(24)「はい (Y)」ボタンをクリックし、(フロッピーディスクを取り出して) コンピュータを再起動してください。

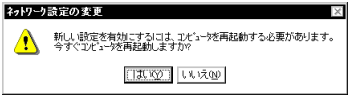


図 5.3.0.22 再起動の確認

5.4 インストール後

5.4.1 リソースの確認

コンピュータを再起動すると、本製品にリソースが割り当てられ、使用可能な状態となります。Windows NT 診断プログラムでデバイス「COPCC2」にインストール時に指定した値 (IRQ および I/O ポートの値) が割り当てられていることを確認してください。

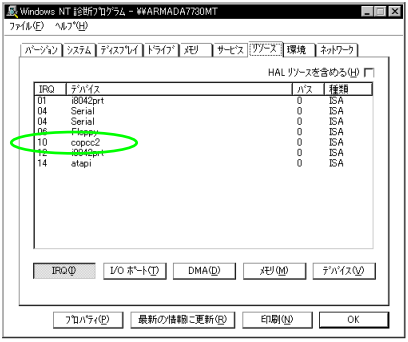


図 5.4.1.1 インストール後の確認 （例：IRQ）

注意

「デバイス」タブ→「COPCC2」と進むと、本製品に割り当てられたリソースが一覧表示されます。（ただし、メモリについては表示されません。）

5.4.2 本製品を使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品を使用しないとき（＝ PC カードスロットに本製品が挿入されていない、またはネットワークケーブルをメディアケーブルから外している場合など）はドライバーをアンロードしてください。ドライバーがロードされたまま前述のことを行った場合、Windows NT はこれらの現象をネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。この現象はドライバーをアンロードすることによって回避できます。

(1) 「コントロールパネル」→「ネットワーク」→「バインド」と進みます。

(2) 本製品のアイコンを選択し、「無効」ボタンをクリックすると本製品のアイコンが無効アイコンに変わります。

(3) 同様の手続きを、本製品にバインドしているプロトコル全てに行います。

5.5 ドライバーの削除と再インストール

本製品の登録内容を削除し、再びインストールする手順は以下のとおりです。ただし、ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません（一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます）。したがって、本製品を再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

5.5.1 ドライバーの削除

(1) 「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブをクリックしてください。

(2) 「ネットワークアダプタ (N):」で「corega EtherII PCC-T Adapter」を選択し、「削除(R)」ボタンをクリックしてください。

図 5.5.1.1 ネットワークアダプタを削除

(3) 「はい」ボタンをクリックし、（フロッピーディスクがドライブに入っている場合は取り出して）コンピュータを再起動します。

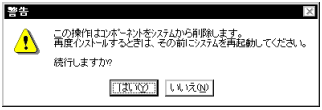


図 5.5.1.2 再起動の確認

5.5.2 再インストール

終了後、再びドライバーのインストールを行う場合は「ネットワーク」（コントロールパネル）を起動し、「アダプタ」 タブで 「追加 ..」 をクリックしてください。
（「5.3 ドライバーの新規インストール」 の 手順 (7) から再開することになります。）

6 Windows NT Ver. 3.51

本製品のドライバーを Windows NT Ver. 3.51 上にインストールする手順を説明します。なお、本マニュアルでは Windows NT Workstation を用いて説明を行います。

6.1 準備と確認

本製品のインストールを始める前に、以下のことをご確認ください。
各操作・設定の手順については Windows NT のマニュアル・ヘルプをご覧ください。

Windows NT のハードウェア互換性リスト（Windows NT パッケージに同梱されています）に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

本マニュアルに記載した内容は一例であり、お客様の使用するコンピュータやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。予めご了承ください。

本製品のインストールを Windows NT のインストールと同時に行うことは避けてください。必ず、Windows NT のインストールを完了したあとで、本製品のインストールを行ってください。Windows NT は Plug&Play をサポートしていないため、Windows NT と本製品のインストールを同時に行うと、Windows NT のインストール中に本製品が使用するハードウェアリソースが他のデバイスと重複するおそれがあり、重複の回避に手間取ることがあります。

Windows NT では活線挿抜（コンピュータの電源をオンにしたままでカードの抜き挿しを行うこと）はできません。本製品の挿抜を行う際には必ずコンピュータの電源がオフになっていることをご確認ください。誤って活線挿抜を行った場合に起こった障害についてはユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

6.2 ドライバーのインストール

「ネットワークアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」場合のインストール手順について説明します。また、Windows NT が要求する問い合わせに対して、基本的にはデフォルトで答えると仮定しています。

「ネットワークアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」場合とは、「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない(D)」を選択した場合に相当します。

6.2.1 用意するもの

- EtherII PCC-T カード本体・メディアケーブル等
- コンピュータ（Windows NT 3.51 インストール済み）
- Windows NT の供給ディスク（フロッピーディスクまたは CD-ROM）
- ドライバーディスク（2 種類のディスクが付属しています。コンピュータ機種に応じてご使用ください）

6.2.2 リソースの確認

6.2.2.1概要

Windows NT は Plug & Play をサポートしていないため、本製品が使用するリソースの値をドライバーのインストール時に設定する必要があります。そのため、ドライバーをインストールする前にリソースの空き状況を調べる必要があります。

本製品のドライバーに組み込まれているリソースの工場出荷時の値（「6.2.2.2 リソースの値」参照）が、他のデバイスによって既に使用されている場合は重複を避けるため本製品の使用する値を変更します。（設定はドライバーのインストール時に表示される設定ダイアログで行います。）そのため、ドライバーをインストールする前に値が重複していないかを確認し、重複している場合は空いている値を調べてください。

リソースの状況を調べるには、コンピュータメーカーで予め定めてあるデバイスについてはコンピュータのマニュアルをご覧ください。また、本製品を含む拡張デバイスが追加されているコンピュータについては「Windows NT 診断プログラム」（「6.2.2.3 Windows NT 診断プログラムの使用方法」参照）を使用するとそれらの拡張デバイスを含む、リソースの割り当て状況を確認できます。

注意

コンピュータに予め組み込まれているデバイスの中には「Windows NT 診断プログラム」上に表示されないものがありますので、必ずコンピュータのマニュアルと「Windows NT 診断プログラム」の 2 つを用いて確認を行ってください。

6.2.2.2リソースの値

工場出荷時の 値および 設定可能な値の範囲は以下の通りです。() 内の表記は、16 進数です。

- I/O ベースアドレス
  初期設定値　　0x300
  設定可能な値　　0x200、0x220、0x240、0x260、0x280、0x2A0、0x2C0、0x2E0,
  0x300、0x320、0x340、0x360、0x380、0x3A0、0x3C0、0x3E0
- IRQ（AT 互換機 /PC98-NX）
  初期設定値　　10(A)
  設定可能な値　　3, 4, 5, 7, 9, 10(A), 11(B), 15(F)
- IRQ（PC-9800/PC-9821）
  初期設定値　　5
  設定可能な値　　3, 5, 6, 10(A), 12(C)

6.2.2.3Windows NT 診断プログラムの使用方法

(1) 「プログラムマネージャ」→「管理ツール」→「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。

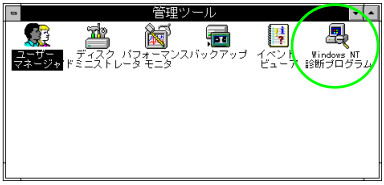


図 6.2.2.1 Windows NT 診断プログラムの起動

(2) 「IRQ/ ポートの状態」を選択します。

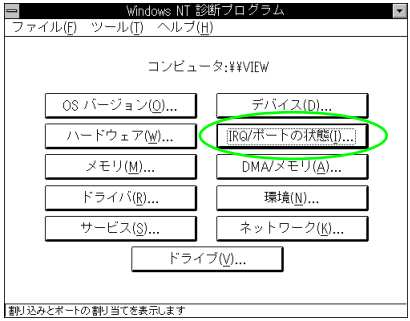


図 6.2.2.2 IRQ/ ポートの状態

(3) 「割り込み／ポート」画面が表示されます。割り込み（IRQ）は「ベクタ」を、ポート（I/O アドレス）は「物理アドレス」の欄を、それぞれご覧の上、空き状況を確認してください。

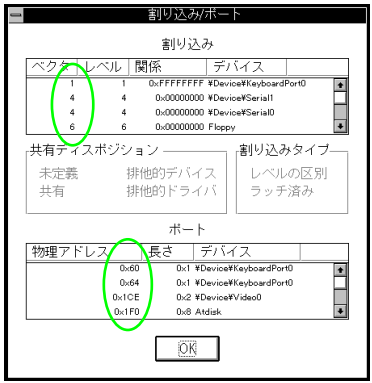


図 6.2.2.3 リソースの表示（IRQ, I/O Base Address）

(4) Windows NT 診断プログラムを終了します。

6.3 ドライバーの新規インストール

(1) コンピュータの電源をオフにし、本製品をコンピュータの PC カードスロットに挿入します。

(2) 本製品をネットワークに接続します。

(3) 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

図 6.3.0.1 ネットワ ーク （コントロールパネル）

(4) 「直ちにネットワークを組み込みますか？」の問いに対して、「はい」ボタンをクリックしてください。

図 6.3.0.2 ネットワークの組み込み開始

(5) 「Windows NT セットアップ」が起動します。Windows NT の CD-ROM またはフロッピーディスクをドライブに挿入し、Windows NT の配布ファイルへのフルパス（AT 互換機では「I386」、PC-98 では「PC98」となります）を入力します。（ここでは、ドライブ名を D: と仮定します。）

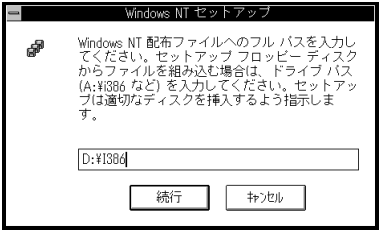


図 6.3.0.3 WindowsNT ファイルの所在の指定

注意

ネットワーク環境が既にインストールされている場合はこのダイアログは表示されず、「ネットワークの設定」が起動します。この場合は手順 (12) に進み、本製品のみのインストールを実行してください。

(6) 「検出しない」ボタンをクリックしてください。

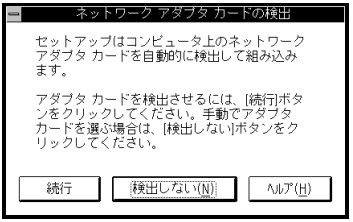


図 6.3.0.4 ネットワ ークアダプタカードの 検出

(7) 「続行」ボタンをクリックしてください。

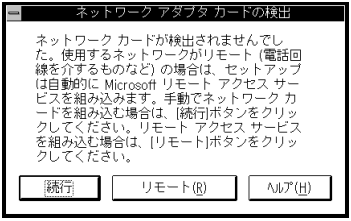


図 6.3.0.5　ネットワークカードを組み込みの確認

(8) 「ネットワークアダプタの追加」ダイアログが表示されます。「ネットワークアダプタ カード (N)：」リストボックスで最下行の「<なし>後でネットワーク インターフェイスを選ぶ」を選択し、「続行」ボタンをクリックします。

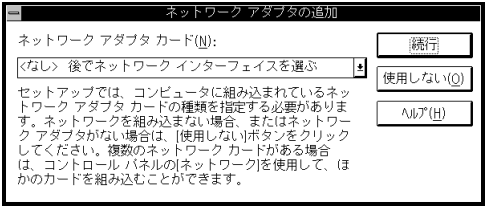


図 6.3.0.6 ネットワークインタフェースは後で選ぶ

(9) 「OK」ボタンをクリックします。

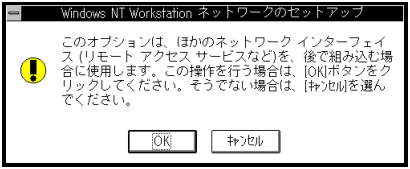


図 6.3.0.7 操作の確認

(10) ネットワークで使用されているプロトコルをチェックして「続行」ボタンをクリックします。お客様のネットワークでどのようなプロトコルが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。ここではTCP/IP のみをチェックすると仮定します。

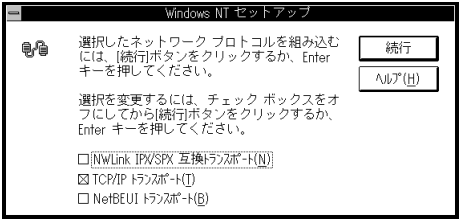


図 6.3.0.8 プロトコルの選択

(11) 手順(10）で TCP/IPを選択した場合は TCP/IPオプションに関する設定画面が表示されます。お客様の環境に合わせて 適宜設定し、「続行」ボタンをクリックしてください。

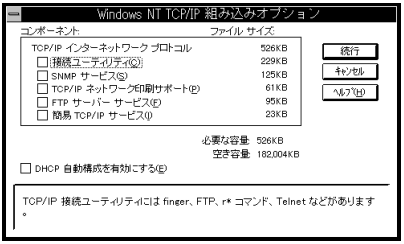


図 6.3.0.9 TCP/IP オプションの選択

(12)「ネットワークの設定」ダイアログが表示されます。「アダプタカードの追加 (P)」ボタンをクリックしてください。

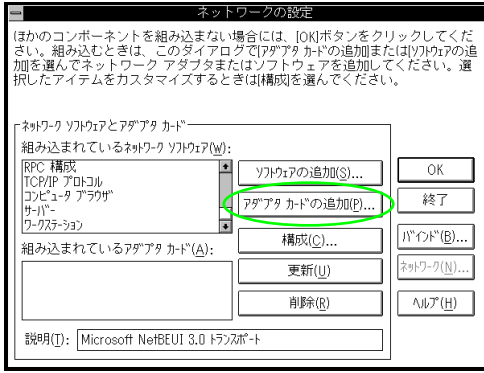


図 6.3.0.10 アダプタカードの追加

(13) 「ネットワークアダプタの追加」ダイアログが表示されます。「ネットワークアダプタカード (N)」リストから最下行の「<その他>各メーカーのディスクが必要」を選択し、「続行」ボタンをクリックします。

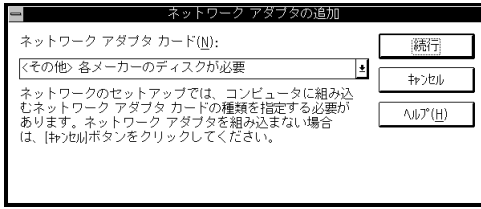


図 6.3.0.11 ネットワークアダプタカードの選択にはディスク使用

(14) ドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、パス "A:\windows.nt" を入力してください。(ここでは、フロッピーディスクドライブを A: と仮定します。)

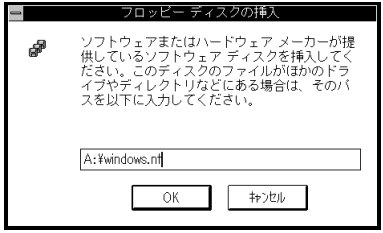


図 6.3.0.12 ドライバーファイルのパス（所在）の入力

(15)「corega EtherII PCC-T Adapter」がアクティブになっていることを確認して、「OK」ボタンをクリックしてください。

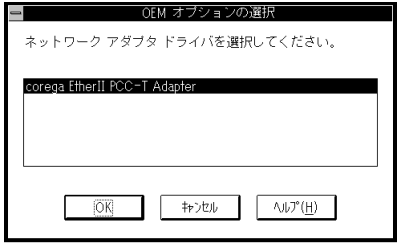


図 6.3.0.13 ネットワークアダプタドライバの確認

(16) 続いて本製品の設定画面が表示されます。適切な設定値を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。次の画面は、AT 互換機 /PC98-NX におけるデフォルトの例です。PC-9800/PC-9821 の場合、デフォルトの IRQ は「5」となります。

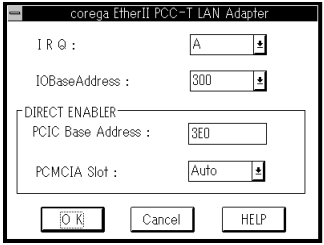


図 6.3.0.14 **本製品の設定（AT 互換機 /PC98-NX の例）**

- **IRQ、IOBaseAddress**
  これら 2 項目は他のデバイスと重複しない適切な数値を選択してください。

- **DIRECT ENABLER**（次ページの参考もご覧ください）
  AT 互換機 /PC98-NX をご使用の場合、「Direct Enabler」に関する 2 項目について設定します。基本的に、表示されているデフォルト値のままで変更は必要ありませんが、本アダプターがうまく動作しないとき、下記の手順にしたがって設定を行ってください。
  PC-9800/PC-9821 をご使用の場合、デフォルト値のままご使用ください。

  PCIC Base Address
  ホスト PCMCIA コントローラアドレスの値を指定します。デフォルト値は 3E0h です。一般的に、コンピュータのホスト PCMCIA コントローラアドレスの値は **0x3E0**（PCMCIA Release2.1 規格による推奨値）に設定されていますが、コンピュータの機種によっては異なる値を使用しているものもありますので、必ずご使用のコンピュータのマニュアルでご確認ください。

  PCMCIA Slot
  本製品を挿入している PC カードスロットの番号（1 または 2）を指定します。デフォルトは Auto（自動選択）ですが、できる限り番号で指定してください。スロットの番号は「1」「2」で指定しますが、ご使用のコンピュータが異なる表記を用いている場合もあります。一般的には「0」「1」で表記されている場合は「0」→「1」、「1」→「2」、「上」「下」で表記されている場合は「上」→「2」、「下」→「1」と置き換えればよいようですが、機種によっては逆の場合もありますので、必ずコンピュータのマニュアルでご確認ください。

(17)「バインド」ボタンをクリックしてください。

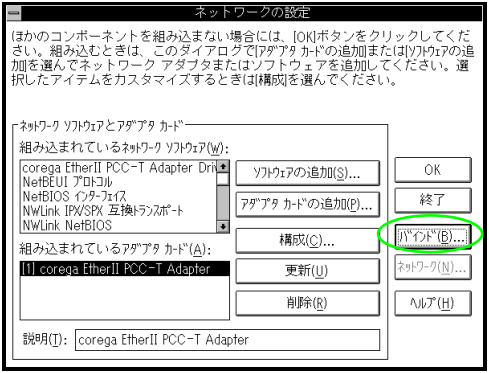


図 6.3.0.15 バインドの設定

（参考）DIRECT ENABLER：本ドライバーには、PCMCIA.SYSを使用せず、直接 PCMCIA コントローラ（PCIC）を制御して本製品を活性化する機能である Direct Enabler が組み込まれています。 Direct Enabler は、本製品を活性化するために PCIC Base Address を使用します。 ほとんどのコンピュータの PCIC Base Address は 「PCMCIA Release2.1 規格」 の推奨値である「0x3E0」となっています。しかしながら、推奨値ではないコンピュータも存在しますので、この場合は Direct Enabler にコンピュータが使用している PCIC Base Address の 値を設定してやる必要があります。

(18) 使用するプロトコルスタックを選択し、「OK」 ボタンをクリックしてください。プロトコルスタックが本製品にバインドされます。

図 6.3.0.16 プロトコルの選択

(19) 続いてソフトウェアの設定を行います。ここではTCP/IPの場合について説明します。「TCP/IP プロトコル」を選択し、「構成 (C)...」ボタンをクリックしてください。

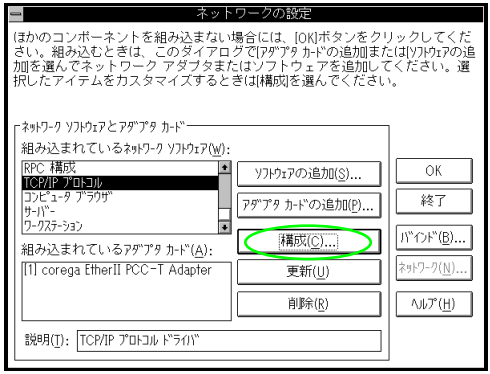


図 6.3.0.17 TCP/IP のカスタマイズ

(20) TCP/IP の設定を行います。設定内容についてはネットワーク管理者にご確認ください。以下は起動時の画面です。設定を終えたら「OK」ボタンをクリックしてください。

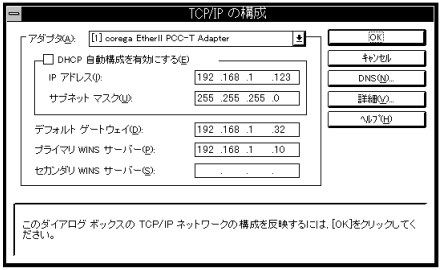


図 6.3.0.18 TCP/IP の構成 （起動時）

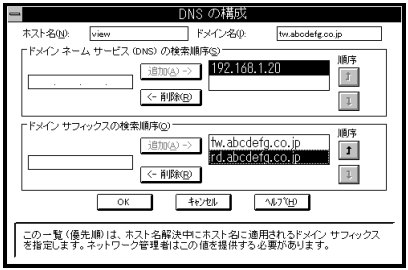


図 6.3.0.19 DNSの構成（図 6.3.0.18 で「DNS」をクリック）

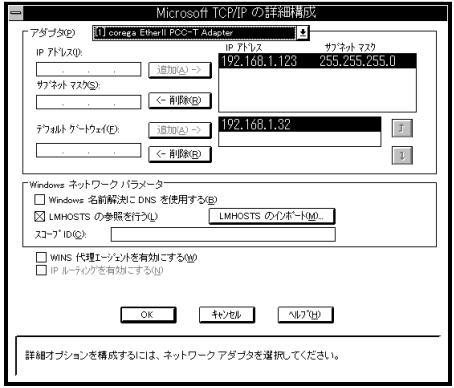


図 6.3.0.20 TCP/IP の詳細設定 （図 6.3.0.18 で「詳細」 をクリック）

(21) 必要に応じて他のネットワークソフトウェアを追加またはカスタマイズし、「終了」ボタンをクリックします。（詳細はネットワーク管理者にご確認ください。）

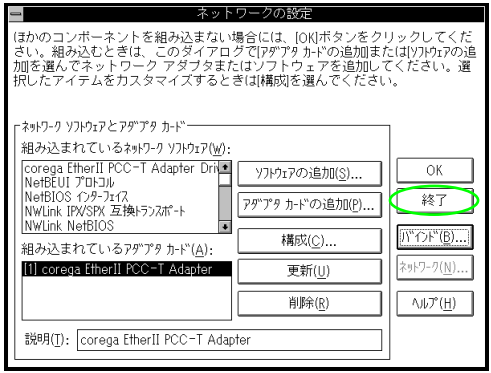


図 6.3.0.21 ネットワークセットアップの終了

(22) ここで、次のダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。

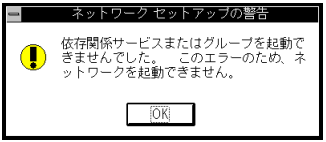


図 6.3.0.22 「OK」ボタンをクリック

(23) 次のダイアログが表示されたら、「いいえ」ボタンをクリックしてください。

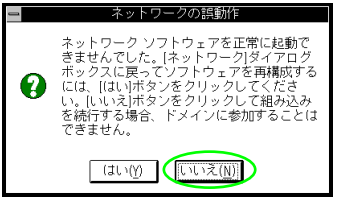


図 6.3.0.23 「いいえ」ボタンをクリック

(24) 参加するドメイン／ワーク グループを設定し「OK」ボタンをクリックします。詳細はシステム管理者にご相談ください。

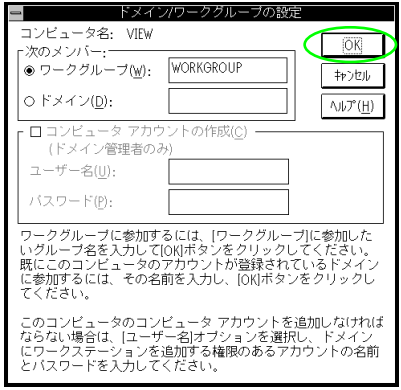


図 6.3.0.24 ワークグループなどの設定

(25) 次の画面が表示されたらフロッピー ディスクをディスクドライブから取りだし、「コンピュータの再起動」アイコンをクリックして再起動します。これで設定内容が有効化されます。

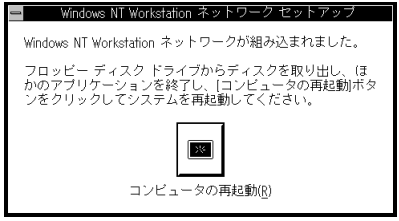


図 6.3.0.25 コンピュータの再起動

6.4 インストール後

6.4.1 リソースの確認

コンピュータを再起動すると、本製品にリソースが割り当てられ、使用可能な状態となります。Windows NT 診断プログラムでデバイス「COPCC2*」（* は番号）にインストール時に指定した値（「割り込み／ポート」の値）が割り当てられていることを確認してください

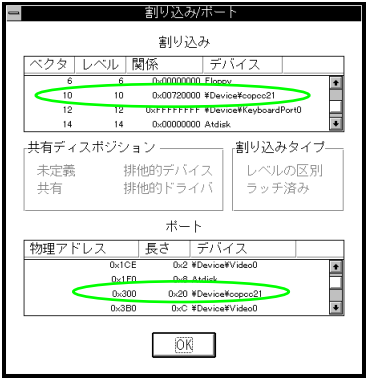


図 6.4.1.1 割り込み／ポート

6.4.2 本製品を使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品を使用しないとき（＝ PC カードスロットに本製品が挿入されていない、またはネットワークケーブルをメディアケーブルから外している場合など）はドライバーをアンロード（バインドしない）してください。ドライバーがロードされたまま前述のことを行った場合、Windows NT はこれらの現象をネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。この現象はドライバーをアンロードすることによって回避できます。

(1) 「コントロールパネル」→「ネットワーク」→「ネットワークの設定」→「バインド(B)..」と進みます（図 6.3.0.15～図 6.3.0.16 参照）。

(2) 本製品に関する項目全てについて、左端の電球のマークをクリックして電球が消えている状態にしてください。

6.5 ドライバーの削除と再インストール

本製品の登録内容を削除し、再びインストールする手順は以下のとおりです。ただし、ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません（一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます）。したがって、本製品を再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

6.5.1 ドライバーの削除

(1) 「プログラムマネージャ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワークの設定」ダイアログを表示します。「組み込まれているアダプタカード」リストから「corega EtherII PCC-T」を選択し、「削除」ボタンをクリックします。

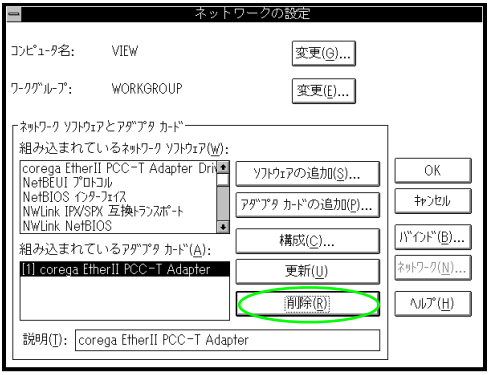


図 6.5.1.1 アダプタカードを削除

(2) 「はい」ボタンをクリックします。

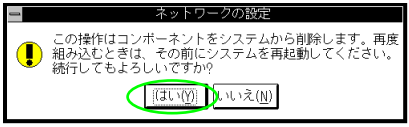


図 6.5.1.2 削除の確認

(3) 「組み込まれているアダプタカード」から「corega EtherII PCC-T Adapter」が消えていることを確認して「OK」ボタンをクリックします。

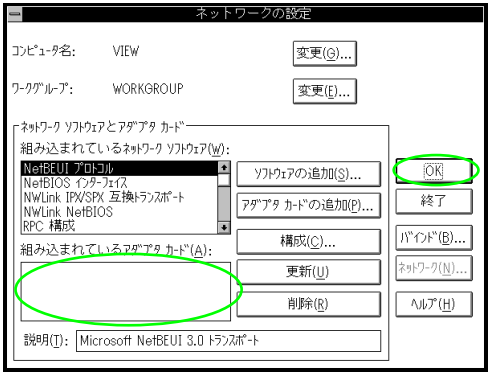


図 6.5.1.3 削除後のネットワーク設定の確認

(4) 「再起動する」ボタンをクリックして、(フロッピーディスクがドライブに入っている場合は取り出して) コンピュータを再起動します。

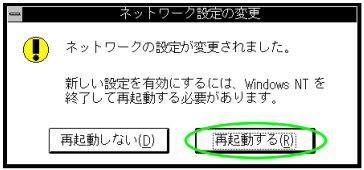


図 6.5.1.4 再起動を実行

6.5.2 再インストール

終了後、再びドライバーのインストールを行う場合はネットワーク（コントロールパネル）を起動し、「アダプタカードの追加..」をクリックしてください。（「6.3ドライバーの新規インストール」の手順 (12) から再開することになります。）

7 ネットワークのトラブル

「通信できない」とか **「故障かな？」**と思われる前に、以下のことを確認してください。

7.1 LNK LED は点灯していますか？

LNK（LINK）LED は、ハブ（またはスイッチ）と正しく接続されている場合に点灯するランプです。LNK LED は、本製品とハブの両方に存在します。本製品とハブの両方の LNK LED が点灯していることを確認してください。どちらか一方しか点灯していない、または両方とも点灯しない場合は、以下のことを確認してください。

- ハブの電源がオンになっているか確認してください。
- UTP ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 正しい UTP ケーブルを使用しているか確認してください。本製品とハブとの接続には「ストレートタイプのケーブル」を使用しなければなりません。
- ハブのポートの設定が正しいか確認してください。ハブ機種によっては、ハブ同士を接続するためのポート（カスケードポート）を持つものがあり、通常カスケードポートには設定スイッチが存在します。カスケードポートに本製品を接続するときは、カスケードポートの設定スイッチで同ポートを**「MDI-X」**や**「to pc」**に設定しなければなりません（通常のハブのポートとして設定する）。
- ハブの特定のポートが故障している可能性もあります。ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。
- UTP ケーブルに問題はありませんか？ ケーブルの不良は外観から判断しにくいため（結線は良いが特性が悪い場合など）、他のケーブルに交換して試験してみてください。
- ハブの通信速度、カードの通信速度を確認してください。

7.2 LNK LED は点灯しているが…

LNK LED は点灯しているが、通信が遅いなどの障害が発生している場合、以下のことを確認してください。

- UTP ケーブルの長さは正しいですか？ ふたつのネットワーク機器の直接リンクを形成する UTP ケーブルは、最長 100m と規定されています。

- 正しいUTP ケーブルを使用していますか？ 10BASE-Tでは「カテゴリー3」以上のUTP ケーブルを使用しなければなりません。
- UTP ケーブルに問題はありませんか？ ケーブルの不良は外観から判断しにくいため（結線は良いが特性が悪い場合など）、他のケーブルに交換して試験してみてください。

A ハードウェア診断プログラム

ハードウェア診断プログラム「**PCCDIAG.EXE**」は、本製品が正常に動作するかどうかの確認や、本製品の使用中に異常が生じた場合の原因究明にお使いください。PCCDIAG.EXE は、ドライバーディスクの「**\DOSTOOL**」に収められています。ご使用のコンピュータ機種に応じて、「AT 互換機 /PC98-NX 用ドライバーディスク」または「PC-9800/PC-9821 用ドライバーディスク」に含まれているものをご使用ください。

A.1 概要

PCCDIAG.EXEは以下の順番でハードウェアのテストを行い、エラーを検出するとメッセージを表示して終了します。

(1) I/Oポートのテスト

(2) 物理アドレス（ROM）の読みだしテスト

(3) インタラプト（割り込み）のテスト

(4) 制御回路の機能試験

(5) ループバックテスト1
（制御回路内部での折り返し試験）

(6) ループバックテスト2
（エンコーダ・デコーダまで含めた折り返し試験）

(7) ループバックテスト3
（外部ケーブルインタフェースモジュールまで含めた折り返し試験）

PCCDIAG.EXEは、自身でPCMCIAコントローラを初期化するので、「カードサービス・ソケットサービス」または「イネーブラ」を必要としません。

A.2 テストの手順（Windows98/95）

(1) 本製品をネットワークに接続してください。

(2) Windows98 の場合は、「Ctrl」キーを押しながら（コンピュータによっては、「F8」キー）コンピュータの電源をオンにするか、または、Windows を再起動します。Windows95 の場合は、コンピュータの電源をオンにするか、または Windows を再起動し、「Starting Windows95...」または 「Windows95を起動しています…」というメッセージが出ている間にキーボードの F8 キーを押します。

(3) メニューが表示されたら、「Command prompt only」（または「コマンドプロンプトのみ」）を選択します。ただし「Safe mode command prompt only」（または「Safe モード（コマンドプロンプトのみ）」）の選択肢がある場合は、それを選択します。

Windows98/95 の「MS-DOS プロンプト」や、Windows 終了時に選択する、「MS-DOS モードでコンピュータを再起動する (M)」では動作しません。

メニュー項目の番号は、お使いの環境によって異なります。下記のメニュー表示は、一例です。

```
Microsoft Windows 95 Startup Menu
_____________________

  1. Normal
  2. Logged (\BOOTLOG.TXT)
  3. Safe mode
  4. Safe mode with network support
  5. Step-by-step confirmation
  6. Command prompt only
  7. Safe mode command prompt only
  8. Previous version of MS-DOS

Enter a choise: 7
```

(4) ご使用の コンピュータ機種用 のドライバーディスクをフロッピードライブに入れ、PCCDIAG コマンドを実行します。コマンドの入力形式は以下の 通りです（"drv" は

ディスクドライブ名、[ ] 内はオプション、# は数値。各オプションの詳細は、A.4 項で説明します)。

ハードウェア診断プログラムは、AT 互換機/PC98-NX 用、PC-9800/PC-9821 用ともに同じファイル名前です。ハードウェア診断を行う前にドライバーディスクのラベルをご確認ください。

```
drv:\>DOSTOOL\PCCDIAG [-i:#] [-b:#] [-p:#]
```

AT 互換機/PC98-NX のコマンド例（デフォルト値）

```
A:\>DOSTOOL\PCCDIAG -i:10 -b:300 -p:3E0
```

PC-9800/PC-9821 のコマンド例（デフォルト値）

```
B:\>DOSTOOL\PCCDIAG -i:5 -b:300 -p:3E0
```

A.3 テストの手順（Windows NT）

A.3.1 Windows NT における特記事項

本プログラムは MS-DOS で動作します。Windows NT の MS-DOS プロンプトウィンドウ（NT 3.51 では「コンソール」、NT4.0 では「コマンドプロンプト」と呼びます）では動作しません。本プログラムをご使用になれるのはご使用のコンピュータで MS-DOSを使用できる場合に限られますのでご了承ください。

PC-9800/PC-9821 をご使用の場合は、予め CONFIG.SYS のカードサービス・ソケットサービスに関する行をコメントアウトし、再起動しておいてください。ソケットサービス・カードサービスについての詳細はご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

A.3.2 使用手順

(1) コンピュータの電源がオフであることを確認して、PC カードソケットに本製品を挿入します。

(2) コンピュータの電源をオンにし、MS-DOS を起動します。ハードディスクから MS-DOS が起動できるようにコンピュータが設定されていない場合は、MS-DOS の起動

フロッピーディスクをご使用ください（MS-DOS の起動フロッピーディスクはあらかじめご用意ください）。

(3) 本製品をネットワークに接続してください。

(4) 「A.2 テストの手順（Windows98/95）」の手順 (4) にお進みください。

A.4 コマンドオプション

PCCDIAG コマンドのオプションは以下の 3 種類があり、それぞれの意味ととりうる値は以下の通りです。なお、各オプションを指定しない場合、太文字の値（デフォルト値）を指定したとして実行されます。

-i: **インタラプト**
「-i: 」に続けてインタラプトの値を指定します。下記の値を指定できます。
AT 互換機 /PC98-NX で設定可能な値
3、4、5、7、9、**10**、11、15
PC-9800/PC-9821 で設定可能な値
3、**5**、6、10、12

-b:l **/O アドレス**
「-b:」に続けて I/O アドレスの値を指定します。下記の値を指定できます。
200、220、240、260、280、2A0、2C0、2E0、
300、320、340、360、380、3A0、3C0、3E0

-p: **ホスト PCMCIA コントローラアドレス**
ホスト PCMCIA コントローラアドレスを指定します。-p オプションを付けない場合、「**3E0**」を指定したと解釈されます。PCMCIA Release2.1 規格では PCMCIA コントローラのアドレスは 3E0、3E1が推奨されていますがこの値はコンピュータによって異なることがあります。ご使用のコンピュータのマニュアルでご確認ください。

A.5 エラーメッセージ一覧

1. corega EtherII PCC-T Card is not ready. Or I/O mapping error.
原因: corega EtherII PCC-T アダプタが実装されていない。
対処: 正しく実装してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: Windows95 OSR2 バージョンにおいて "Command prompt only" モードで起動した。
対処: "Safe mode command prompt only" モードでコンピュータを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: PCCDIAG コマンドが認識できない ソケットサービス､カードサービスドライバが常駐している。
対処: config.sys ファイルから SS, CS ドライバを削除し､コンピュータを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: 既にポイントイネーブラを使用して何等かの PCMCIA カードが使用されています。
対処: 他 PCMCIA カード、ポイントイネーブルコマンドを削除し、コンピュータを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: ホスト PCMCIA コントローラが検出できない。
対処: PCCDIAG コマンドはソケットサービス､カードサービスドライバが常駐していない場合、ホスト PCMCIA コントローラを直接制御し corega EtherII PCC-T を活性化します。PCCDIAG は初期値として I/O アドレス 3E0, 3E1 を検索します。コンピュータによって異なることがありますのでご使用のコンピュータのマニュアルでご確認ください。3E0H, 3E1H 以外の場合、-p オプションを使用して再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。
または、ソケットサービス、カードサービスドライバを config.sys ファイルに記述し、コンピュータを再起動後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

2. This I/O has been already Used!!

原因: この I/O ポートは既に他のハードウェアによって使用されています。
対処: -b オプションで他の I/O ポートを指定してください。
他の PCMCIA カードも使用している場合は､そのカードを抜き､corega EtherII PCC-T のみにしてコンピュータを再起動してください｡その後､再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

3. This IRQ has been already Used!!

原因: この IRQ は既に他のハードウェアによって使用されています。
対処: -i オプションで他の IRQ を指定してください。
他の PCMCIA カードも使用している場合は､そのカードを抜き､corega EtherII PCC-T のみにしてコンピュータを再起動してください｡その後､再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

4. No Free Socket

原因: PCMCIA カードサービスドライバが正常に動作していません。または、資源を全て使用しています。

対処: PCMCIA カードを使用している他のドライバを全て解除し（config.sys ファイルなどから も削除し）コンピュータを 再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンド を実行 して ください。それ でも改善さ れない 場合は、config.sys ファイルから SS, CS ドライバを削除し、コンピュータを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

5. Is Not our corega EtherII PCC-T Card

原因: corega EtherII PCC-T 以外のアダプタが実装されています。

対処: アダプタカードを確認してください。他の PCMCIA カードも使用している場合は、そのカードを抜き、corega EtherII PCC-T のみにしてみてください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: この I/O ポートは既に他のハードウェアによって使用されています。

対処: -b オプションで他の I/O ポートを指定してください。

他の PCMCIA カードも使用している場合は、そのカードを抜き、corega EtherII PCC-T のみにしてコンピュータを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

6. Tried to be enable the card directly, but not complete.

原因: PCCDIAG コマンドが認識できない ソケットサービス、カードサービスドライバが常駐している。

対処: config.sys ファイルから SS, CS ドライバを削除し、コンピュータを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: 既にポイントイネーブラを使用して何等かの PCMCIA カードが使用されています。

対処: 他 PCMCIA カード、ポイントイネーブルコマンドを削除し、コンピュータを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

A.6 診断結果

診断表示例

```
            Mode: Enabler
       Int Level: 10
         IO Base: 300
        IO Check: OK
   Ether Address:  00 90 99 xx xx xx (yy)
Buffer RAM Check: OK
 Interrupt Check: OK
Loopback Check 1: OK
Loopback Check 2: OK
Loopback Check 3: OK
```

1. Mode

corega EtherII PCC-T の活性化モードを表示します。
SS/CS : コンピュータ上で起動されているソケットサービス、カードサービスを使用しています。
Enabler : ソケットサービス、カードサービスが起動されていないのでPCCDIAG コマンドでホスト PCMCIA コントローラを直接制御しています。

2. Int Level

corega EtherII PCC-T の診断に使用した割り込み番号（IRQ）です。この割り込み番号は、-i オプションで変更可能です。

3. IO Base

corega EtherII PCC-T の診断に使用した I/O ポートアドレスです。この I/O ポートアドレスは、-b オプションで変更可能です。

4. IO Check

I/O ポートの診断結果です。
OK : 正常動作
NG : 動作不良、I/O ポードアドレスが競合している恐れがあります。-b オプションで他の I/O ポートアドレスを指定してください。

5. Ether Address: 00 90 99 xx xx xx (yy)

MAC 物理アドレス ROM の読みだしテストの結果で、読み出した MAC 物理アドレスを 16 進数で表示します。() 内は、最後の 4 桁を 10 進数で表したものです。
MAC 物理アドレス ROM の読みだしテストに失敗した場合は、
"Address ROM Check: NG"

"Memory size Check: NG"
"Address ROM Check: Illegal Address"
のように詳細が表示されます。I/O ポードアドレスが競合している恐れもありますので -b オプションで他の I/O ポートアドレスを指定して再度 PCCDIAG コマンドを実行してみてください。

6. Buffer RAM Check

corega EtherII PCC-T カードに実装されている RAM の診断結果です。
OK : 正常動作
NG : 動作不良、I/O ポードアドレスが競合している恐れがあります。-b オプションで他の I/O ポートアドレスを指定してください。

7. Interrupt Check

corega EtherII PCC-T の割り込みライン、動作の診断結果です。正常動作しない場合、割り込み番号が競合している恐れがあります。-i オプションで他の割り込み番号を指定してください。
OK : 正常動作
no interrupt : 動作不良
Tx timeout : 送信動作不良
Tx error interrupt: 送信失敗

8. Loopback Check 1

制御回路内部でのデータ折り返し試験結果です。
OK : 正常動作
CRC NG: 折り返しデータ不正
Tx timeout: 送信動作不良
Tx error: 送信失敗

9. Loopback Check 2

エンコーダ・デコーダまで含めたデータ折り返し試験結果です。
OK : 正常動作
CRC NG: 折り返しデータ不正
Tx timeout: 送信動作不良
Tx error: 送信失敗

10. Loopback Check 3

外部ケーブルインタ フェースモジュールまで含め たデータ折り返し試験結果です。正常動作しない場合、ケーブルが正しく接続されていない恐れがあります。corega EtherII PCC-T および、HUB 側で "LINK" の状態を確認してください。
OK : 正常動作
CRC NG: 折り返しデータ不正
Tx timeout: 送信動作不良
Tx error: 送信失敗

B 付録

B.1 製品仕様

1. ハードウェア仕様

- カード規格： PC Card Standard (PCMCIA Rel. 2.1 / JEIDA Ver. 4.2)
- ネットワーク： IEEE802.3 10BASE-T
  Ethernet Ver 2.0

2.機械的仕様

- 外形：
  カード： 85.6 x 54.0 x 5.0 (mm)（Type II PC Card）
  メディアケーブル： 300 (mm) （モジュラージャック部を含む）
- 重量：
  カード： 約 30g
  メディアケーブル： 約 10g

3.電気的仕様

- 動作電圧： DC +5V ± 0.5%
- 消費電流： 最大 70 mA

4.環境条件

- 動作保証温度： 0 ～ 55 ℃（PC カードの周囲温度）
  （注：PC カードの周囲温度であって、コンピュータの周囲温度ではありません）
- 保存温度： -20 ～+65 ℃
- 動作・保存湿度： 95% 以下（ただし結露なきこと）

5.電気雑音の発生防止

- 雑音端子電圧： VCCI クラス B
- 雑音電界強度： VCCI クラス B

6.ネットワーク機能

- 転送速度： 10Mbps
- RAM バッファ： 32K bytes SRAM
- I/O ベースアドレス :0x200, 0x220, 0x240, 0x260, 0x280, 0x2A0, 0x2C0, 0x2E0, 0x300, 0x320, 0x340, 0x360, 0x380, 0x3A0, 0x3C0, 0x3E0
- インタラプト: 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10(A), 11(B), 12(C), 15(F)

B.2 ネットワークインターフェース

10BASE-T インターフェース（MDI）は、RJ-45 型と呼ばれるモジュラージャックが使用されています。

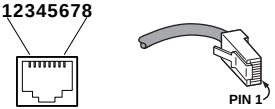


図 B.2.0.1 RJ-45 モジュラージャック、プラグ

ピン番号	信号（MDIポート）
1	送信データ（+）
2	送信データ（−）
3	受信データ（+）
4	未使用
5	未使用
6	受信データ（−）
7	未使用
8	未使用

図 B.2.0.2 信号線名

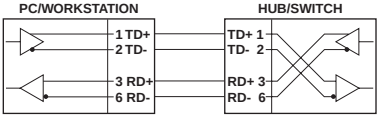


図 B.2.0.3 UTP ケーブル（ストレートタイプ）

B.3 MAC アドレス

イーサネットに接続される機器は、MAC アドレスと呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MAC アドレスは機器（アダプター）のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の（unique、ユニークな）アドレスです。

MAC アドレスは、下記の 6 バイト（48 ビット）によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本製品の MAC アドレスは、製品に貼付されている MAC アドレスラベルに記入されています（表記は全て 16 進数）。

00	90	99	xx	xx	xx
ベンダー ID			通し番号		

- ベンダー ID
  LAN ベンダー（LAN 用機器を製造しているメーカー）が IEEE に申請することにより得られる識別番号です。
- 通し番号
  この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたもので、本製品は、0A から始まる 6 桁の数値となっています。この通し番号と本製品の「シリアル番号ラベル」の番号に関連はありません。

MAC アドレス（マックアドレスと読みます）は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもあります。また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境で使用される IP アドレスに関係がありますが、これらは別々のものです。

C ネットワークの設定

ここでは、Windows98/95 で、ピアツーピア接続をするためのネットワークの設定例について説明します。Windows98 の場合は 「3.2 インストールの確認とアダプターの 設定」（p.25)、Windows95 の場合は「4.2 インストールの確認とアダプターの設定」(p.47）を参照し、LAN アダプターの設定が正常であることを確認した後で、ネットワークを利用したデータの送受信を行ってみましょう。データの送受 信をするためには、各コンピュータについて設定が必要になります。

C.1 ピアツーピア接続をするための設定方法

ピアツーピア接続をするためには、すべてのコンピュータについて以下の設定が必要になります。

- ●「NetBEUI」、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認、「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加
- ●ユーザー情報、または識別情報（コンピュータ名、ワークグループ）の確認
- ●コンピュータの共有設定（ハードディスク・プリンター等の共有）

ここでは、 ハードディスクの共有を説明しています。 プリンターを共有する場合は、プリンターメーカによって操作が異なりますので、 プリンターメーカにご相談ください。

C.1.1 「NetBEUI」、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認

(1) 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択します。

(2) 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

(3) 「ネットワー ク」ダイアログボ ックスの「現在のネ ットワークコ ンポーネント」に、「NetBEUI」と「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

Windows95 の場合は、「現在のネットワークコン ポーネント」が 「現在のネットワーク構成」 という表示になります。

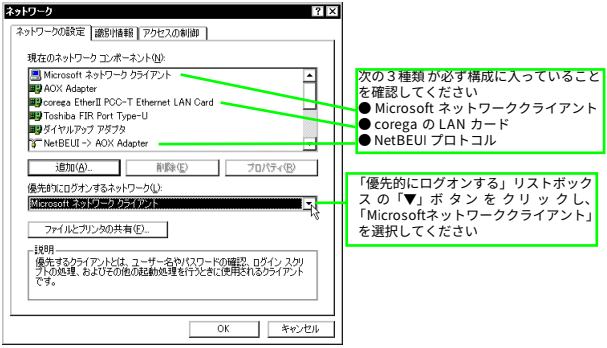


図 C.1.1.1 「ネットワークの設定」

「NetBEUI」と「Microsoft ネットワーククライアント」が 「現在のネットワークコンポーネント」 に無い場合は、 以下の 【ネットワークコンポーネントに無い場合】を参考に各サービスやプロトコルを追加してください。

【ネットワークコンポーネントに無い場合】

「NetBEUI」と「Microsoft ネットワーククライアント」 が表示されていない場合は、以下の項目を参照してネットワークコンポーネントに追加してください。

- 「Microsoft ネットワーククライアント」が無い場合 ⇒「付録 C.2.1」へ
- 「NetBEUI」が無い場合 ⇒「付録 C.2.2」へ
- 「corega の LAN カード」が無い場合 ⇒
  Windows98 では「「3.2 インストールの確認とアダプターの設定」(p.25)」へ
  Windows95 では「「4.2 インストールの確認とアダプターの設定」(p.47)」へ

C.1.2 「Microsoft ネットワーク共有サービス」 の追加

以下の 手順に従い、「Microsoft ネットワーク共有サービス」 を追加します。

(1) 「ファイルとプリンタの共有」をクリックします。

(2) 「ファイルを共有できるようにする」および「プリンタを共有できるようにする」のチェックボックスをクリックし「OK」ボタンをクリックします。画面が戻り「Microsoft ネットワーク共有サービス」が追加されます。

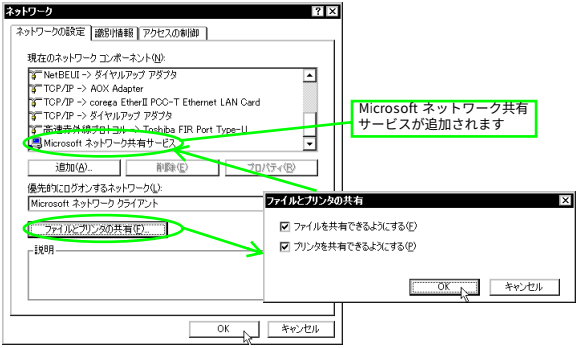


図 C.1.2.1 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加

C.1.3 識別情報の確認

以下の 手順に従い、「識別情報」を確認します。

(1) 「識別情報」タブをクリックしてください。

Windows95 の場合は、「識別情報」というタブが「ユーザー情報」というタブになります。

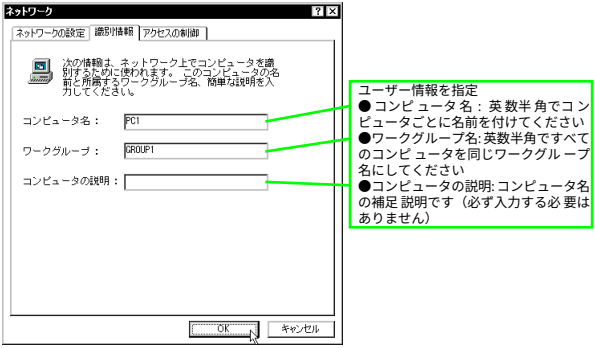


図 C.1.3.1 「識別情報の確認」

(2) 「コンピュータ名」、「ワークグループ名」、「コンピュータの説明」を設定します。詳細説明については、「C.5 識別情報画面」を参照してください。設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックしてください。

重要：ワークグループ名は、ピアツーピア接続する全てのコンピュータに同じ名前を設定してください。Windows の OS 自体が、コンピュータ名・ワークグループ名の漢字（日本語・カナ）に対応していません。必ず英数半角をご使用ください。

(3) Windows の再起動が要求されますので、「OK」ボタンを押して、再起動してください。

要求されない場合でも、設定を有効にしますので手動で再起動してください。

(4) Windows が再起動され「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。詳細説明は、「C.4 ユーザー名とパスワード」を参照してください。

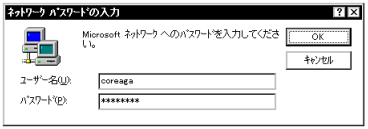


図 C.1.3.2 「ネットワークパスワードの入力」

「ユーザー名」と「パスワード」は毎回、必ず入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。入力しない場合は、ネットワークでの通信ができなくなることがあります。

C.1.4 コンピュータのディスク共有設定

コンピュータのドライブやフォルダの共有を設定します。ここでは、「マイコンピュータ」の中の「Cドライブ」を共有するときの手順を例に説明します。

(1) デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

(2) 「マイコンピュータ」ダイアログの「(c:)」ドライブアイコン上で右ボタンをクリックし、メニューを表示して「共有 (H)」を選択します。

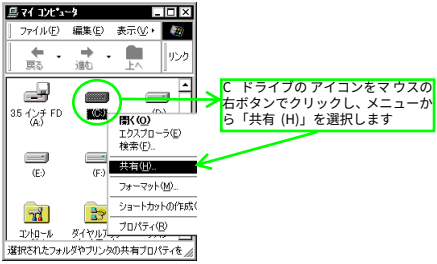


図 C.1.4.1 「C ドライブ」の共有

(3) 「共有」タブをクリックし、「共有する (S)」ラジオボタンをチェックします。

(4) 「共有名」、「アクセス権の種類」、「パスワード」などの項目を運用方法に合わせて設定します。設定方法についての詳細説明は、「C.3 共有設定画面」を参照してください。

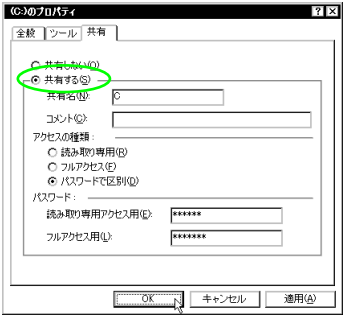


図 C.1.4.2 「共有」の設定

(5) C ドライブのアイコンが次の画面のようになります。

図 C.1.4.3 共有設定されたドライブの表示

C.1.5 他のコンピュータへの接続

以下の 手順に従い、他のコンピュータに接続します。

(1) Windows デスクトップ上の「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。ピアツーピア接続されているコンピュータが表示されます。

図 C.1.5.1 「ネットワークコンピュータ」表示

(2) 表示されているコンピュータのアイコンから接続したいコンピュータをダブルクリックします。

(3) 共有設定で、「共有する」と設定されたドライブが表示されます。

(4) 上記 (3) で表示されたドライブをダブルクリックすると、「共有する」と設定されている中身（ファイルやフォルダ）が表示され、アクセスが可能となります。

重要：タイミングによって接続したいコンピュータが表示されない事もあります。その際は、「ネットワークコンピュータ」を再表示、または「表示」メニューの「最新の情報に更新」を選択してください。

以上で LANアダプタの設定は全て完了です。

C.2「Microsoft ネットワーククライアント」および「NetBEUI」の追加方法

ここでは、「Microsoft ネットワーククライアント」および「NetBEUI」の追加方法について説明します。以下の手順に従い、操作してください。

C.2.1 「Microsoft ネットワーククライアント」の追加方法

(1) 「スタート」メニューの「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」を選択し、「ネットワーク」ダイアログで、「追加(A)」ボタンをクリックしてください。

図 C.2.1.1 ネットワーク構成ファイルの追加

(2) 「インストールするネットワークコンポーネント」の一覧より、「クライアント」を選択し、「追加 (A)」ボタンをクリックします。

Windows95 の場合は、「インストールするネットワークコンポーネント」 が「インストールするネットワーク構成ファイル」 という表示になります。

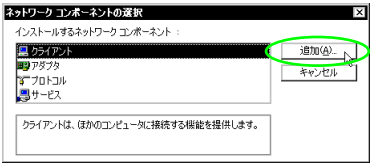


図 C.2.1.2 「ネットワーククライアント」の追加

(3) 「製造元」に「Microsoft」、「ネットワーククライアント」に「Microsoft ネットワーククライアント」を選択し、「OK」ボタンを押します。次頁の図 C.2.1.3 を参照してください。

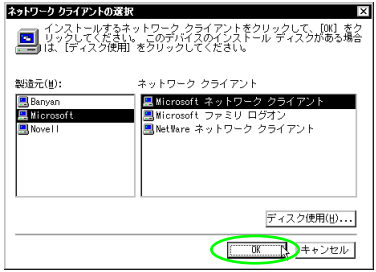


図 C.2.1.3 「Microsoft ネットワーククライアント」を追加

(4) 「OK」ボタンをクリックすると (2) の画面に戻ります。「C.1.1 「NetBEUI」、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認」で追加されていることを確認してください。

C.2.2 「NetBEUI」の追加方法

(1) 「スタート」メニューの「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」を選択し、「ネットワーク」ダイアログで、「追加(A)」ボタンをクリックしてください。

図 C.2.2.1 ネットワーク構成ファイルの追加

(2) 「インストールするネットワークコンポーネント」の一覧より、「プロトコル」を選択し、「追加(A)」ボタンをクリックします。

Windows95の場合は、「インストールするネットワークコンポーネント」が「インストールするネットワーク構成ファイル」という表示になります。

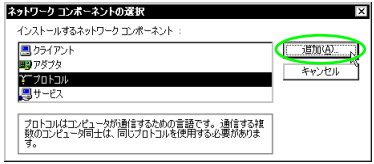


図 C.2.2.2 「ネットワークプロトコル」の追加

(3) 「製造元」に「Microsoft」、「プロトコル」に「NetBEUI」を選択し、「OK」ボタンを押します。

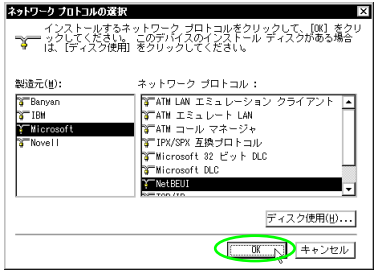


図 C.2.2.3 「NetBEUI」を追加

(4) 「OK」ボタンをクリックすると(2)の画面に戻ります。「C.1.1 「NetBEUI」、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認」で追加されていることを確認してください。

C.3 共有設定画面

共有したいドライブのアイコンをマウスの右ボタンでクリックし、メニューから「共有」を選択すると、次の画面が表示されます。

図 C.3.0.1 「共有」設定の画面

設定する項目の説明は、次の通りです。

●共有しない：　ドライブの共有を解除するときに選択します。

●共有する：　ドライブの共有を設定するときに選択します。

●共有名：　共有するドライブの名称を変更することが出来ます。

●コメント (C)：　共有するドライブやフォルダに対する説明を入力します。
（必ず入力する必要はありません）

●アクセス権の種類：共有するドライブに対して読み書きの許可を設定します。
- 読み取り専用 (R)：　共有するドライブを読み込み専用にします。
- フルアクセス (F)：　共有するドライブに読み書きを許可します。
- パスワードで区別 (D)：　パスワードにより、読み書きを許可します。

●パスワード：「アクセス権の種類」に対するパスワードです。
- 読み取り専用アクセス用 (E)：読み取りを許可するときのパスワードを設定します。
- フルアクセス用 (L)：読み書きを許可するときのパスワードを設定します。

C.4 ユーザー名とパスワード

ドライバのインストールが完了し、コンピュータを再起動すると「ネットワークパスワードの入力」ダイアログボックスが表示されます。

●ネットワークを使用するときは、ユーザー名とパスワードを入力してください。
ただし、ネットワークを使用しないときは入力する必要はありません。

●ユーザー名とパスワードは、Windows をセットアップする過程で設定しています。
初めてログインするときは、セットアップ時のユーザー名とパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。(パスワードは空白でも可能です)

ユーザー名とパスワードは任意に設定できます。特に決まりはありません。また名称によって通信ができないという事もありません。

注意

「ネットワークパスワードの入力」ダイアログは、「ネットワークの設定」ダイアログ(「コントロールパネル」で「ネットワーク」アイコンをクリックする)で、「優先的にログオンする」の設定が、「Microsoft ネットワーククライアント」に設定されていない場合は表示されません。

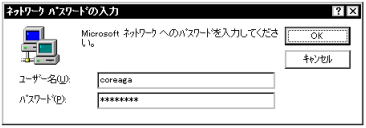


図 C.4.0.1 「ネットワークパスワードの入力」

C.5 識別情報画面

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択し、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックして、「識別情報」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

Windows95の場合は、「識別情報」というタブが「ユーザー情報」というタブになります。

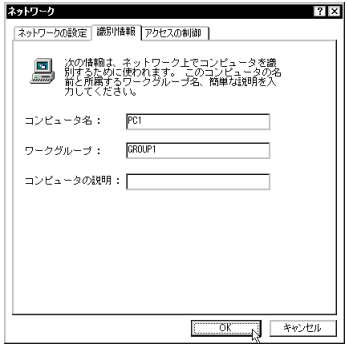


図 C.5.0.1 「識別情報」の設定

設定する項目の説明は、次の通りです。

- ●コンピュータ名：ネットワーク上でコンピュータを識別するための名称です。各コンピュータごとに固有の名称を設定します。（英数半角のみ）
- ●ワークグループ：ネットワーク上のコンピュータをグループ分けするための名称です。特に分ける必要がなければ、ネットワーク内のコンピュータは、すべて同一の名称にしてください。（英数半角のみ）
- ●コンピュータの説明：「コンピュータ名」の補足説明です。特に入力しなくても構いません。

D 保証について

無条件で製品を保証するということではありません。正しい使用法で使用した場合のみ、保証の対象となります。物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となります。詳しくは、本書に記載されている「製品保証規定」をお読みください。また、本製品（ドライバーディスクは除く）の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

E 修理について

故障と思われる現象が発生した場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しくされているかを確認してください。現象が改善されない場合は、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、保証書を添付し、弊社サポートセンター宛に製品をお送りください。

製品を送られる場合は、次の点にご注意ください。

- 弊社サポートセンターへ製品を送られる場合の送料につきましては、送り主様のご負担とさせていただきます。
  なお輸送中の事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 宅配便など、送付の控えが残る方法でお送りください。
- 修理期間は、製品到着後 7 日程度（弊社営業日数）を予定しております。

製品送付先　〒 222-0033　神奈川県横浜市港北区新横浜 1-19-20
株式会社コレガ　サポートセンター宛

F ユーザーサポートについて

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の 「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAX してください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAX によって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入のお願い」をご覧ください。

Tel: 045-476-6268
月～金（祝・祭日を除く）10:00-12:00、13:00-17:00

Fax: 045-476-6294
年中無休 24 時間

なお、電子メールによるサポートは行っておりませんので、ご了承ください。

F.1 corega Net-News の購読について

■ corega のホームページにアクセスしてください!

http://www.corega.co.jp

corega ホームページにアクセスすれば、商品の 詳細や PC 動作検証リストはもちろん、FAQ などコレガに関するすべての情報が入手できます。ダイレクトショッピングからドライバーのダウンロードまで、便利なサービスも満載で、何でもおまかせのホームページです。

■ corega Net-News を購読しませんか?

http://www.corega.co.jp/inter/news/news.htm

corega Net-News は、コレガ社がお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など、耳よりなニュースをお届けします。ホームページのアップデート情報もお知らせしますので大変便利です。
上記のアドレスでどなたでもご登録いただけますので、是非、ご登録ください。

F.2 調査依頼書のご記入のお願い

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

■ハードウェアとソフトウェア

* 本アダプター上に貼られたラベルに記入されている下記のシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev) を調査依頼書に記入してください。

(例)

* ご使用になっているソフトウェアの種類／バージョン（Ver.）／シリアル番号を記入してください。それらは、ドライバーディスクのラベル上に記入されています。
* 他社のインター フェースボード やユーティリティ をご使用の場合 は全てご記入ください。
* 接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入ください。

■お問い合わせ内容について

* どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入してください。
* エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトしたものなどを添付してください。
* 障害などが発生する場合には、本アダプターと併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入ください。

■ネットワーク構成について

* ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
* 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

F.3 システムレポート添付のお願い

お問い合わせの際には可能な限り システムレポート（お使いのコンピュータの詳細情報を OS が自動作成するレポート）を出力の上、「調査依頼書」 に添付いただきますようお願いいたします。 システムレポートを出力する手順は以下の通りです。

1. Windows98/95

(1) コントロールパネルから「システム」を起動し「デバイスマネージャ」タブを表示します。

(2) 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。

(3) 「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要 (A)」を選択してください。以後、画面の指示にしたがってください。

2. Windows NT Ver.4.0

(1) 「スタート」→「プログラム」→「管理ツール（共通）」→「Windows NT診断プログラム」と進み、「Windows NT診断プログラム」を起動します。

(2) 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。

(3) 「レポートの作成」が表示されます。各オプションについては、「範囲」は「すべてのタブ(A)」を、「詳細レベル」は「完全(M)」を選択してください。以後、画面の指示にしたがってください。

3. Windows NT Ver.3.51

(1) 「プログラムマネージャ」→「管理ツール」と進み、「Windows NT診断プログラム」アイコンをダブルクリックして起動します。

(2) 「ファイル(F)」メニューの「レポートの印刷 (P)...」コマンドを選択します。

(3) 「レポートオプションの印刷」オプションでは「すべてレポートする (R)」を選択してください。以後、画面の指示にしたがってください。

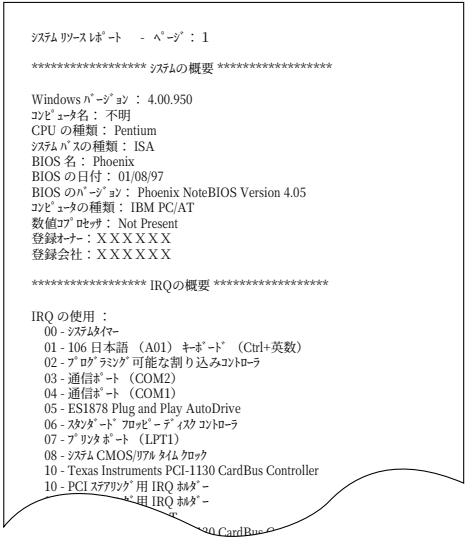


図 F.3.0.1 システムレポートの例

G おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©1999 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。
イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
Windows、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

1999 年 3 月	Rev.A	初版
1999 年 6 月	Rev.B	注意書き追加

調査依頼書（corega EtherII PCC-T 1/2）

年　月　日

一般事項

1. 御社名：
   部署名：　　ご担当者：
   ご連絡先住所：〒

   TEL:　(　　)　　FAX:　(　　)
2. 購入先：　　購入年月日：
   購入先担当者：　　実購入先（TEL）：　(　　)

ハードウェアとソフトウェア

1. ご使用のカードのシリアル番号、製品リビジョン

   製品名：corega＿＿＿＿＿＿＿＿　S/N＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ Rev＿＿
2. ご使用のコンピュータ機種と併用している他メーカーの拡張アダプタ（ボード）
   コンピュータのメーカー名／機種
   OS とバージョン
   拡張アダプタのメーカー名／機種
3. ご使用のサーバー機種（UNIX、NetWare、Windows NT など）
   コンピュータのメーカー名／機種
   OS とバージョン

お問い合わせ内容

□別紙あり　□別紙なし

□設置中に起こっている障害　□設置後運用中に起こっている障害

調査依頼書（corega EtherII PCC-T 2/2）

年　月　日

ネットワーク構成

□別紙あり　　□別紙なし

簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

製品保証規定

■この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

■ドライバーディスクおよびメディアケーブルに関しては、3か月間の無償保証とさせていただきます。（PCカード本体に関しては、1年間の無償保証です。）

■保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

■保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
5. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
6. 製品保証書の提示がない場合
7. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

■修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

■本製品添付のドライバーソフトウェアが他社の提供するハードウェアまたは、アプリケーション・ソフトと共有できるという動作保証および、使用によるその他の損害についての保証は、行いません。

■本ハードウェアが他社の提供するソフトウェアまたは、アプリケーション・ソフトと共有できるという動作保証および、使用によるその他の損害についての保証は行いません。

製品保証書（１年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製品名　corega EtherII PCC-T

シリアル番号
（S/N）

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先

coregaサポートセンター
〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜1-19-20
TEL：045-476-6268　FAX：045-476-6294
受け付け時間：10:00～12:00/13:00～17:00
月～金（祝・祭日を除く）

販売店様印

※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。